

平成 30 年度

# 決算の概況(2)

一般会計 歳出の状況

総務常任委員会関係

企画政策部

## ○決算の概況（2）について

### 1 上段の表中の表示について

- (1) 執行額、翌年度繰越額、執行残額は、単位未満の数値（四捨五入してゼロとなる500円未満の数値）がある場合は「0」（ゼロ）を表記し、該当数値のない場合は「-」（ハイフン）を表記しています。
- (2) 執行額の財源内訳欄及び執行残額の内訳欄は、単位未満の数値（四捨五入してゼロとなる500円未満の数値）がある場合は「0」（ゼロ）を表記し、該当数値のない場合は見易さを考慮し空白としています。
- (3) 個々の数字は、表示単位で四捨五入しています。また、財源内訳欄は、それぞれの数値を表示単位で四捨五入し全体額との調整を一般財源欄で行っています。

### 2 執行残額について

執行残額については、大きく4つの理由に分けて金額を表示するとともに、具体的な内容を【執行残額について】に記載しています。

なお、原則として千円単位の表記となっていますが、執行残額が「0」の場合（単位未満の数値がある）は、円単位で表記しています。

※平成30年度事業が令和元年度に複数の課に分割された場合は、令和元年度所管課分の数値を記載し、下段【】書きで平成30年度事業全体事業費を記載してあります。

事業の概要以降は、令和元年度所管課分の事業について作成してあります。

(例) 平成30年度事業費(●●課) 48,000千円

↓

平成30年度事業費(令和元年度○○○○課) 36,000千円

平成30年度事業費(令和元年度△△△△課) 12,000千円

※平成30年度と令和元年度で所管課名称が変更になった場合、または、課等の名称が変更になった場合は、下記のとおり表現とし、事業を担当する令和元年度の所管課が作成してあります。

記入例：平成30年度は●●課で実施した事業が令和元年度に○○○○課に移管された場合

所管課等	○○○○課 (平成30年度所管は●●課)
------	-------------------------

(単位：千円)

決算書 (P ~ P)	款 項 目	所管課等	○○○○課 (平成30年度所管は●●課)			
事業名						
予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
36,000	【48,000】					
【48,000】						
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	

執行額、翌年度繰越額、執行残額の欄は、次のとおり  
単位未満の数値あり：「0」（ゼロ）  
該当数値なし：「-」（ハイフン）

財源内訳、内訳の欄は、次のとおり  
単位未満の数値あり：「0」（ゼロ）  
該当数値なし：空白

(単位：千円)

決算書 (P124～P125)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	土地利用対策費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
617	520		455			65
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	97				97	

## 【目的】

上越市大規模開発行為の適正化に関する条例や国土利用計画法に基づく届出制度の運用により、関係法令や市の各種計画等と整合を図りながら、第6次総合計画の土地利用構想に適合した土地利用を推進する。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

- ・上越市大規模開発行為の適正化に関する条例の運用により、市内の大規模な土地利用を審査し、第6次総合計画を始めとする市の各種計画や関係法令に適合した土地利用を推進する。
- ・国土利用計画法に基づく土地売買等届出制度の運用により、市内の大規模な土地取引情報を把握し、第6次総合計画を始めとする市の各種計画や関係法令に適合した土地利用の推進に活用する。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・上越市大規模開発行為の適正化に関する条例の運用  
条例に基づく大規模開発行為に係る開発協定の締結件数：1件（金谷地区における土採取）
- ・国土利用計画法に基づく土地売買等届出書の審査（県経由事務）  
国土利用計画法に基づく土地売買等届出書を審査し、市の意見を付して県に提出した。

&lt;届出件数&gt;

年(暦年)	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
土地売買等の届出件数	60件	84件	25件	65件	94件

- ・新潟県大規模開発行為の適正化対策要綱に係る協議書の受付（県経由事務）  
県要綱に基づく協議が必要な案件はなかった。

決算書 (P124～P125)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	土地利用対策費		

○目標達成状況

- ・上越市大規模開発行為の適正化に関する条例に基づき、大規模開発予定者から提出された実施計画書1件について審査を行い、開発協定を締結することで、適正な土地利用を推進した。
- ・国土利用計画法に基づく大規模な土地取引に係る届出94件について、適切な審査の実施とともに、県から届出者に対して市の各種計画等との整合性を踏まえた指導が行われるよう、市の意見を県に提出し、適正な土地利用を推進した。

【事業の成果】

市内における開発行為や土地取引について適正に審査を行い、関係法令や市の各種計画等に適合した土地利用を推進することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

今後も、市内における開発行為や土地取引について適正な審査を行い、関係法令や市の各種計画等と整合を図りながら、第6次総合計画の土地利用構想に適合した土地利用を推進する。

【執行残額について】

その他：報酬及び旅費の残ほか 97

(単位：千円)

決算書 (P124～P125)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	企画調整費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
47,473	40,102	13,250		10,700	110 (諸収入)	16,042
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	7,371			2,322	5,049	

## 【目的】

- 企画調整費（庶務関係）：国、県、関係自治体及び関係機関と連携を図りながら、要望活動などを通じ、市の施策や事業の実現を目指す。
- 重要施策企画調整事業：各種制度や事業等に関する情報収集、調査研究を行うとともに、市の重要施策の企画、立案及び総合調整を行う。また、「産・官・学・金・労・民」の連携・協働により、本市における地方創生の取組を推進する。
- 域学連携推進事業：大学と地域との連携体制を構築し、相互交流や実践活動を推進するとともに、地域の課題解決やまちづくりの推進に取り組み、地域の活性化を図る。
- 城下町高田再生推進事業：城下町高田の歴史・文化遺産の活用を通じて、高田市街地の魅力や都市機能の向上を図り、定住の促進と交流人口の拡大を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■企画調整費（庶務関係） 1,894

## ○平成30年度目標

- ・国、県、関係自治体及び関係機関との連携や連絡調整を図りながら、本市が抱える諸課題の早期解決及び改善に向けた提言や要望を行う。
- ・上越市内官公長連絡協議会を開催し、関係機関との情報共有と情報交換を行う。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・国の制度、予算に対する要望活動の実施（平成30年8月、11月）
- ・市内官公長連絡協議会の開催及び全国施行時特例市市長会を通じた提言活動の実施
- ・各種協議会への負担金の拠出

## ○目標達成状況

- ・時宜を捉えた要望活動の実施により、国等による支援につなげることができた。
- ・上越市内官公長連絡協議会を通じ、国・県の機関と情報や課題の共有を図ることができた。

決算書 (P124～P125)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	企画調整費		

■重要施策企画調整事業 9,948

○平成30年度目標

- ・第6次総合計画に掲げた将来都市像の実現に向けて計画の進捗管理を行う。
- ・第6次総合計画後期基本計画（H31～R4）を策定する。
- ・重要施策の企画、立案に必要な調査研究、情報収集等を行う。
- ・地方創生の着実な推進に向けて「産・官・学・金・労・民」の連携・協働を促進する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・第6次総合計画前期基本計画の施策、事業の評価検証や、市内5か所で開催したまちづくり市民意見交換会、市民の声アンケート、パブリックコメントの実施、また、総合計画審議会による4回の審議を経て、第6次総合計画後期基本計画を策定した。
- ・「上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けられた取組について、ソーシャルメディア等を通じた情報発信や民間団体等に地方創生推進事業補助金による支援を行うとともに、上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会において進捗管理等を行った。
- ・上越市、妙高市及び糸魚川市、並びに、新潟県上越地域振興局及び糸魚川地域振興局で構成する「上越地域ご当地ナンバー導入検討会」に設置した、「上越地域ご当地ナンバー導入検討委員会」を4回開催し、関係3市の特徴を組み合わせたご当地ナンバーの図柄デザインの公募と選定を行った。

○目標達成状況

- ・第6次総合計画に基づく施策の進捗管理を行い、計画を着実かつ効果的に推進するとともに、第6次総合計画の総仕上げに向け、人口減少・少子高齢化の進行に起因する、まちづくりや各種産業、地域の支え合い体制等における担い手・後継者不足への対応を重点化した後期基本計画を策定した。
- ・上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会の活動等を通じて、「産・官・学・金・労・民」の連携・協働を促進した。

■域学連携推進事業 47

○平成30年度目標

市内で行われている域学連携の先行事例等を大学及び関係機関において情報共有を図り、地域の課題解決に向けた取組を行う。

○実施内容、これまでの経過等

- ・大学の専門知識や学生の活力・アイデアをまちづくりにいかすため、市内での域学連携の状況を調査し、情報共有を図ることで、大学と地域との連携の推進につなげた。
- ・大学生まちづくりワークショップを開催し、学生の意見を第6次総合計画の後期基本計画に反映するなど、大学の力を活用した取組を推進した。

○目標達成状況

地域の特産品の販売促進や伝統文化の継承を通じた地域活性化策など、新たに2地域において大学との連携による地域の課題解決に向けた取組が実施された。

決算書 (P124～P125)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	企画調整費		

■城下町高田再生推進事業 28,213

○平成30年度目標

空き家等のリノベーションに関する取組や街なかのサイン計画策定の取組を通じて、民間団体等の発想をいかしながら、多様な担い手の育成と連携を促進するとともに、交流拡大に向けた広場整備事業に着手する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・地域再生計画「城下町高田の歴史・文化をいかした『街の再生』」の推進に資する市民団体の2件の取組を支援した。
- ・空き町家のリノベーションを通じた次世代の街の担い手の育成に向けて、若手人材の発掘に資する空き町家の利活用をテーマとしたワークショップを4回開催するとともに、ソーシャルメディア等を通じた情報発信等を行った。
- ・街なかの回遊促進を図る案内表示等のサイン計画について、地域住民を始め、商店街やまちづくり団体等多様な主体と連携して策定した。
- ・高田世界館周辺エリアの拠点性を高めるとともに、市内外の来訪者の新たな交流の場を創出するため、高田世界館周辺での広場整備に向けて用地取得を行った。

○目標達成状況

民間団体等が実施する地域資源をいかした取組を支援するとともに、民間団体等との協働により街なかサイン計画を策定するなど、各種事業の推進を通じて、多様な担い手の育成と連携の強化を図ることができた。

【事業の成果】

- ・国への要望活動により、国の直轄事業である道路や河川事業の進捗等が図られた。
- ・第6次総合計画前期基本計画の施策、事業の進捗を評価検証するとともに、人口減少・少子高齢化の進行がもたらす課題への対応を重点化した後期基本計画を策定することができた。
- ・上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置付けられた取組や上越市の魅力を、ソーシャルメディアを積極的に活用して市内外の幅広い年齢層に情報発信したことにより、空き町家の利活用をテーマとしたワークショップや、第6次総合計画後期基本計画策定に関するまちづくり市民意見交換会等において、県外居住者や若者等の参加が促進された。
- ・上越ナンバーの令和2年度中の導入に向けて、関係3市の特徴を組み合わせた図柄デザインを公募し、選定するなど、上越地域への愛着や一体感の醸成につながる取組とすることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

人口減少や少子高齢化が進む中でも、市民がすこやかに暮らせるまちの実現を目指すため、第6次総合計画と地方創生の取組を着実に推進しながら、分野横断的な政策・施策の一層の展開や官民連携の強化を図る必要がある。

【執行残額について】

入札差金：印刷製本費 1,956、委託料 366  
 その他：補助金の実績が当初見込みを下回ったことによる残 3,794  
 旅費の残ほか 1,255

(単位：千円)

決算書 (P126～P127)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	歴史資源活用推進事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
105,377	103,139	47,744		33,300	11 (諸収入)	22,084
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,238	20		794	1,424	

## 【目的】

当市の歴史的遺産等の再評価や貴重な地域資源としての重要性を認識し、市民の地域に対する愛着の高揚を促すとともに、全国に当市の魅力を発信し地域の活性化と文化振興を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■市所有の町家の公開による情報発信・市民意識の啓発 2,561

○平成30年度目標

市が所有する町家への来場者数 6,000人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 市所有の町家の公開、まちなか散策の促進 1,708

- ・地域の市民団体と連携したイベント「越後高田町家三昧」を開催し、期間中は市民スタッフによる「まちなみ散策ミニツアー」を実施した。
- ・観光ツアーや総合学習の来場者に合わせて町家を公開した。

公開日数：170日



旧今井染物屋 外観

(2) 市所有の町家の維持管理 853

- ・修繕料 139 (旧金津憲太郎桶店2階窓修繕ほか)
- ・委託料 485 (旧今井染物屋庭園剪定業務、消火器点検業務ほか)
- ・光熱水費、下水道使用料ほか 229

○目標達成状況

年間来場者数 6,224人

■歴史的建造物を活用した回遊性の強化や賑わいの創出 96,521

○平成30年度目標

歴史的建造物の保存と有効活用により、貴重な歴史的遺産への関心や理解を深めるとともに、周辺地域の賑わい創出に寄与する。



決算書 (P126～P127)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	歴史資源活用推進事業		

○実施内容、これまでの経過等

- (1) 旧今井染物屋の活用 2,333  
建物公開を行うとともに、ヨガ講座や美術作品展の開催、物販の実施など、町家の活用促進に向けた取組を実施した。
- (2) 高田世界館の活用 3,139  
台湾映画祭やマサラ上映の関連イベント、映画のロケ地ツアーなど、広域からの誘客やまちなか回遊につながるイベントを実施した。
- (3) 旧今井染物屋保存活用改修案の検討 7,290  
旧今井染物屋の保存と更なる活用に向け、構造などの詳細な調査や保存活用改修案の検討を行った。
- (4) 旧直江津銀行の耐震改修 83,759  
旧直江津銀行の保存と更なる活用に向け、耐震改修工事等を行った。

○目標達成状況

歴史的建造物への関心や理解を深めるとともに、地域の賑わい創出に向けた取組を実施した。

- (1) 旧今井染物屋及び高田世界館の活用

年度	旧今井染物屋		高田世界館	
	公開日数(日)	来場者数(人)	開館日数(日)	来場者数(人)
H28	135	3,087	326	16,425
H29	182	5,668	316	14,141
H30	170	5,359	315	17,585

- (2) 旧直江津銀行の耐震改修  
耐震改修工事等を実施し、公の施設として日常的な施設利用が可能になった。

■雁木整備事業補助金の交付 2,224

○平成30年度目標

市民への経済的支援を行うことにより、雁木整備を促進する。

○実施内容、これまでの経過等

指定地区における雁木の新築・修繕、雁木下通路の段差解消工事に対し補助金を交付した。

<補助率・限度額>

- ・補助率…1/2
- ・限度額…450千円

決算書 (P126～P127)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	歴史資源活用推進事業		

○目標達成状況

申請のあった8件の工事に補助金を交付し、市民による雁木の整備を推進した。

<平成30年度末までの地域指定及び補助金の交付状況>

年度	地域指定		補助金交付	
	件数(件)	指定距離(m)	件数(件)	金額(千円)
平成16～29年度	25	10,543	115	50,529
平成30年度	-	-	8	2,224
合計	25	10,543	123	52,753

■共通事務費 1,833

非常勤一般職報酬、旅費、消耗品費、自動車借上料ほか

【事業の成果】

- ・高田小町周辺の通り沿いには、高田世界館や旧今井染物屋、雁木など趣のある建造物があり、市の建物公開などのほか、市民団体等による主体的なイベントや取組により、市外からの来場者が増加傾向にある。
- ・旧直江津銀行については、当初予定していた時期にオープンできなかったものの、平成31年3月に市の文化財としての指定を受けるとともに、ライオン像のある館として同年4月に供用を開始し、現在、コンサートや作品展示等で利用されている。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・旧今井染物屋などの歴史的建造物を活用した取組を、地域の賑わい創出やまちなか回遊観光につなげていくには、地域住民や市民団体等との連携が不可欠であることから、様々な分野の団体等に対し歴史文化をいかしたまちづくりへの参画を促す取組を進めていく。
- ・旧今井染物屋については、「城下町高田の歴史・文化をいかした『街の再生』」事業推進計画に掲げる手仕事が体験できる施設等としての活用を実現するため、今後、必要な設計や改修工事を計画的に進めていく。

【執行残額について】

事業費節減：旧今井染物屋の除雪負担金の残 20

入札差金：印刷製本費 120、委託料 674

その他：当初見込みを下回ったことによる報償費、委託料、工事請負費等の残 1,424

(単位：千円)

決算書 (P126～P129)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	新幹線整備促進費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
175,955	58,182		500	5,300	6,680 (繰越金 諸収入)	45,702
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
104,707	13,066	1,068		8	11,990	

## 【目的】

- 新幹線新駅周辺地区まちなみ形成推進事業：広域の玄関口である上越妙高駅周辺地区のまちなみ形成と、土地利用方針に位置付けた「質の高い新都市空間」の形成を推進する。
- 新幹線まちづくり推進事業：新幹線開業によるまちの変化を的確に捉えながら効果的な施策を展開し、新幹線をまちの力として取り込むことにより、第6次総合計画で設定した市政運営のテーマである「選ばれるまち」「住み続けたいまち」の実現を図る。
- 北陸新幹線の整備促進に向けた協議会の活動など：北陸新幹線の早期全線開通と県内駅の利便性向上に向け、沿線自治体との連携の下、関係団体に対する要望活動等を行う。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ■新幹線新駅周辺地区まちなみ形成推進事業 48,634

## ○平成30年度目標

- ・上越市新幹線駅周辺地区商業地域土地利用促進協議会との連携
- ・各種補助制度を通じた上越妙高駅周辺への企業進出の加速化

## ○実施内容、これまでの経過等

- (1) 上越市新幹線駅周辺地区商業地域土地利用促進協議会への補助金交付  
地権者組織である上越市新幹線駅周辺地区商業地域土地利用促進協議会へ補助金を交付するとともに、同協議会と定期的に情報交換や意見交換を行うなど、活動を支援した。
- (2) 上越妙高駅周辺商業地域進出企業に対する各種補助制度の運用  
協議会と協力して上越妙高駅周辺への進出に関心のある企業(4社)を訪問したほか、各種補助制度の運用を通じて、駅前の立地特性をいかした民間資本による事業展開を促した。  
また、各種補助制度において営業開始期限を設定していることを踏まえ、土地の利活用の見通しや着工の時期等について情報収集を行った。

## &lt;利用実績&gt;

区 分	件 数	金 額
企業設置等奨励金(平成25年度制定)	3件	126
建築資金借入利子前払事業補助金(平成28年度制定)	1件	31,994
レンタルオフィス・サポート事業補助金(平成28年度制定)	3件	1,127
優良建築物等整備事業補助金(平成29年度制定)	2件	12,100

決算書 (P 126～P 129)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成 30 年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	新幹線整備促進費		

○目標達成状況

- ・定期的な情報交換や企業訪問等を通じて、上越市新幹線駅周辺地区商業地域土地利用促進協議会の活動を支援した。なお、平成 30 年 11 月 30 日に土地区画整理事業の換地処分が完了し、協議会を介さずに法務局で土地情報を確認できるようになったことや、約 9 割の土地で利用が決定または検討中となったことなどから、協議会については所期の目的を達したと判断し、令和元年 5 月に開催された総会をもって解散した。
- ・賃貸マンション及びコンビニエンスストアの計画見直しに伴い、利用決定済みの土地面積は減少したものの、ホテルや飲食店、温浴施設等の商業施設の整備・開業が進んだ。
- ・企業訪問により補助制度の活用意向を確認するとともに、早期の企業進出の PR を行った。

区分	H30. 4. 20 (A)	H31. 3. 31 (B)	比較増減 (B) - (A)
利用決定済みの土地	75,881 m <sup>2</sup> (79.0%)	68,557 m <sup>2</sup> (71.4%)	△7,324 m <sup>2</sup>
利用を検討中の土地	10,799 m <sup>2</sup> (11.3%)	16,359 m <sup>2</sup> (17.0%)	5,560 m <sup>2</sup>
未利用の土地	9,355 m <sup>2</sup> (9.7%)	11,119 m <sup>2</sup> (11.6%)	1,764 m <sup>2</sup>
合計	96,035 m <sup>2</sup> (100.0%)	96,035 m <sup>2</sup> (100.0%)	0 m <sup>2</sup>

■新幹線まちづくり推進事業 1,594

○平成 30 年度目標

- ・新幹線をいかしたまちづくりの推進
- ・北陸新幹線上越妙高駅の利用促進

○実施内容、これまでの経過等

(1) 新幹線利用動向調査の実施 (市内企業を対象とした北陸新幹線に関するアンケート)

北陸新幹線の利用促進に向けた課題整理と今後の取組の検討の基礎資料とするため、市内企業を対象に、出張等における北陸新幹線の利用状況や改善要望等についてアンケートを実施した。

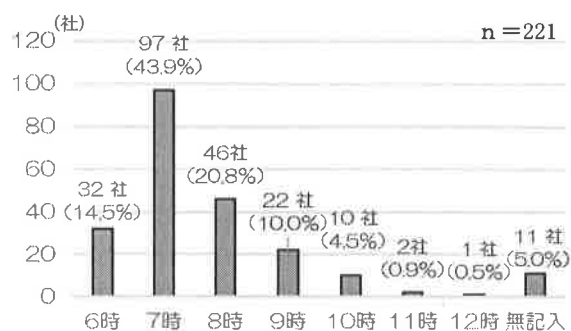
<アンケート結果の概要>

①日帰りにおける最多利用列車の時間帯

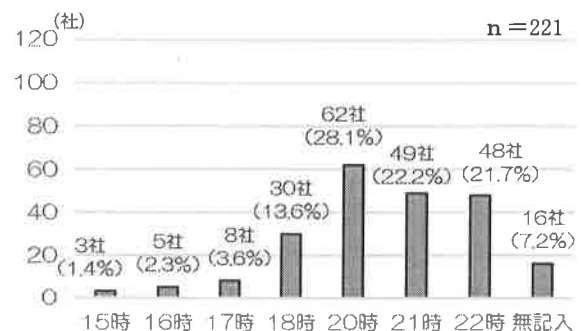
東京方面、金沢方面ともに日帰り出張の際は、7 時～8 時に上越妙高駅を出発し、18 時～19 時に出張先での用務を終えて新幹線に乗車し、19 時～22 時に上越妙高駅に到着する傾向がある。

[東京方面]

<上越妙高駅を出発する列車の時間帯>

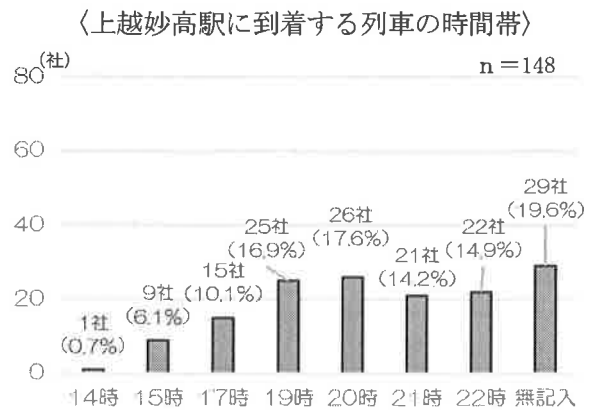
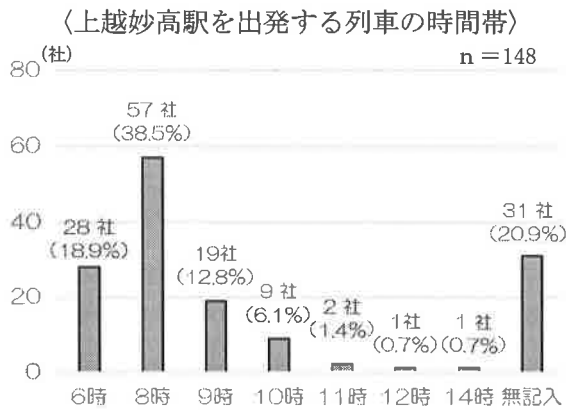


<上越妙高駅に到着する列車の時間帯>



決算書 (P126～P129)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・交通政策課)
事業名	新幹線整備促進費		

〔金沢方面〕

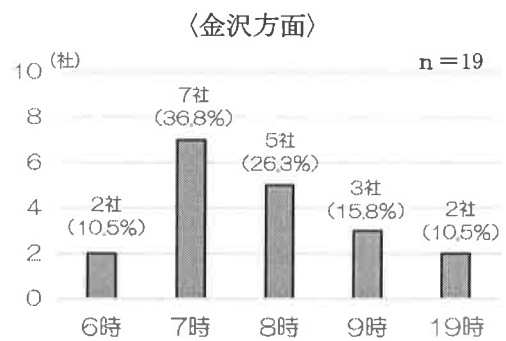
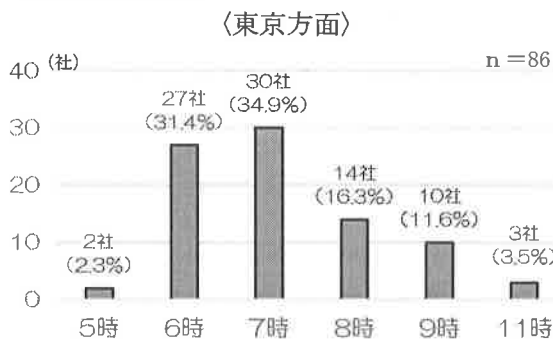


②北陸新幹線を利用する上で増便を希望する時間帯について

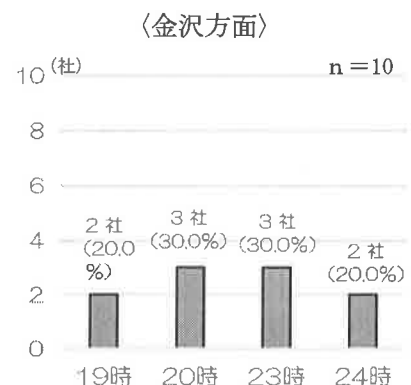
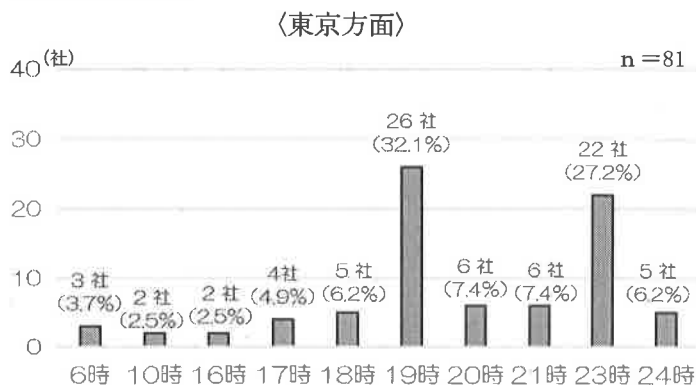
上越妙高駅発で増便を希望する時間帯は、東京方面・金沢方面ともに朝の時間帯(6時～9時)が多かった。

上越妙高駅着で増便を希望する時間帯は、東京方面からは19時と23時、金沢方面からは19時以降と、いずれも夜の時間帯において増便希望が多かった。

〔上越妙高駅発〕



〔上越妙高駅着〕



決算書 (P126～P129)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	新幹線整備促進費		

<アンケート結果から把握できた出張利用における特徴>

- ・日帰り出張等で北陸新幹線を利用する際は、上越妙高駅を7時～8時に出発し、19時～22時に上越妙高駅へ到着する便を利用する傾向がある。増便を希望する時間帯は、上越妙高駅に発着しない時間帯が多い。
- ・東京方面への北陸新幹線の利用は、金沢方面と比べて約1.5倍と多く、平成29年度に実施した新幹線乗降客アンケートと同様に、ビジネス目的での利用は首都圏とのつながりが強い状況を改めて確認することができた。

(2) 上越妙高駅利用啓発事業

①調査情報の発信

これまでの調査で得られた情報を市ホームページで発信するとともに、北陸新幹線建設・活用促進期成同盟会が実施した要望活動において、調査結果を基に説得力のある資料を作成し、活用した。

②上越妙高駅前イルミネーション事業の実施

「上越妙高駅と共に歩む会」から寄贈された機材を活用し、上越総合技術高等学校の協力を得て、上越妙高駅東口イベント広場周辺においてイルミネーションを実施した。

<実施概要>

点灯期間：平成30年11月23日（金・祝）～平成31年3月14日（木）

点灯時間：午後5時～11時

設置内容：・東口イベント広場周辺の樹木17本にイルミネーションを設置したほか、上越妙高駅お出迎えキャラクター「ウェルモ」型イルミネーション2体を設置した。  
・市民参加によるおもてなし事業として実施しており、平成29年度よりも上越総合技術高等学校の生徒が設置するイルミネーションの範囲を拡大した。

○目標達成状況

- ・市内企業を対象としたアンケートを通じて、出張等における北陸新幹線の利用状況や改善要望について把握することができた。また、新幹線をいかした新たな取組を進めるため、これまでの調査から見えてきた課題や今後の方向性について、北陸新幹線利用促進研究会に報告し、情報を共有するとともに、中央要望時における利便性向上に向けた具体的な要望活動につなげることができた。
- ・上越妙高駅前イルミネーション事業では、駅に降り立った来訪者におもてなしの心を表現するとともに、市民が駅を訪れるきっかけづくりとすることができた。

決算書 (P126～P129)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	新幹線整備促進費		

■北陸新幹線の整備促進に向けた協議会の活動など 2,050

○平成30年度目標

- ・北陸新幹線の整備状況等に関する的確な情報収集と効果的な要望活動の展開
- ・利便性の高い列車の停車実現に向けた各同盟会、協議会等の構成市との連携強化

○実施内容、これまでの経過等

- ・当市が参画する北陸新幹線関係都市連絡協議会や北陸新幹線建設・活用促進期成同盟会、北陸新幹線建設促進同盟会を通じて、北陸新幹線の整備状況等に関する情報を的確に把握するとともに、国やJR（東日本・西日本）に対し要望活動を行った。
- ・県や沿線市（妙高市・糸魚川市）で組織する北陸新幹線利用促進研究会において、シャトルタイプの「あさま（東京・長野間）」や「つるぎ（金沢・富山間）」の延伸実現に向け、県内駅及び長野・富山駅における団体旅行の利用動向調査を実施した。
- ・北陸新幹線建設・活用促進期成同盟会では、県内の鉄道関係団体との連携の下、首都圏エリア在住者を対象に、新幹線と観光列車を活用したモニターツアーを実施した。



H30.11.14 政府与党への要望



H30.10.28 モニターツアーの様子（高田公園）

○目標達成状況

- ・北陸新幹線長野・金沢間の開業後の利用者の動向を把握し、大阪までの早期整備や上越妙高駅への利便性の高い列車の停車実現に向けて、国やJR（東日本・西日本）に対し効果的な要望活動を行うことができた。
- ・北陸新幹線利用促進研究会において、県内駅における団体旅行の利用動向や利用増加が期待できる要素について共通認識が図られ、上越地域全体として取り組むべき課題を整理することができた。

決算書 (P126～P129)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	新幹線整備促進費		

■北陸新幹線建設事業負担金 5,904

○実施内容、これまでの経過等

- ・北陸新幹線の建設工事に係る対象区域の工事費見込み額を基に、市が負担すべき建設費を支出
- ・平成30年度(平成29年度繰越)は環境対策工事を実施

<北陸新幹線建設事業負担金の推移>

年度	H9～H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	合計
金額	1,245,786	78,345	15,790	4,999	1,098	11	5,904	1,351,933

○目標達成状況

平成29年度から繰り越した環境対策工事の完了に伴い、北陸新幹線建設工事が全て完了した。

【事業の成果】

- ・各種補助制度の運用により、上越妙高駅周辺地区商業地域における土地利用が進み、ホテルや温泉施設、立体駐車場が開業したほか、飲食店の工事が着工されるなど、駅周辺のまちなみ形成を促進することができた。
- ・市内企業を対象としたアンケートを実施したことにより、北陸新幹線の利用状況を把握し、上越妙高駅の利用促進に向けた課題整理と今後必要な取組を検討する際の基礎資料とすることができた。
- ・国やJRへの要望活動により、北陸新幹線金沢・敦賀間の令和4年度末までの延伸開業に向け、順調に工事の進捗が図られている。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・上越妙高駅周辺地区の土地利用方針に位置付けた「質の高い新都市空間」の早期形成を図るため、引き続き、検討中の民間事業の早期着工を促していく。
- ・新幹線の開業効果や市民生活の質の一層の向上に資する上越妙高駅への停車機会の増加に向け、ビジネス、観光、通勤・通学等の様々な用途で新幹線利用を増加させていく必要がある。

【執行残額について】

事業費節減：上越妙高駅東口イルミネーションの実施方法を見直したため	1,008
企業進出支援制度リーフレットの作成方法を見直したため	60
入札差金：団体旅行利用動向調査に係る業務委託料	8
その他：上越妙高駅前への企業進出に係る補助金が当初見込みを下回ったため	10,500
北陸新幹線建設事業負担金が当初予定を下回ったため	1,140
旅費や消耗品費等の実績が当初見込みを下回ったため	350



(単位：千円)

決算書 (P128～P129)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	並行在来線対策事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
66,019	65,938			64,800		1,138
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	81				81	

## 【目的】

沿線の関係団体や関係機関と連携し、在来鉄道（えちごトキめき鉄道、ほくほく線、信越本線）の利便性の維持・向上及び利用促進を図るとともに、えちごトキめき鉄道㈱及び北越急行㈱の経営安定化に向けた支援を行う。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

市民の通学や通勤、買い物などの移動手段であり、地域経済を支える重要な社会インフラである在来線の安全で安定した運行を維持するため、えちごトキめき鉄道㈱及び北越急行㈱の経営安定化を図る支援を行う。また、運行ダイヤや乗り継ぎなど利便性や快適性が向上するよう鉄道事業者等へ働きかけを行うとともに、県及び沿線自治体、鉄道事業者、関係団体等と連携して利用促進や沿線交流の活性化を図る。

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) えちごトキめき鉄道やほくほく線の利便性向上及び利用促進

## ・トキでつ×ほくほく 駅スタンプラリー2018の実施

県や沿線市、えちごトキめき鉄道㈱で構成する「えちごトキめき鉄道活性化協議会」において、えちごトキめき鉄道㈱と北越急行㈱が実施したスタンプラリーを支援し、鉄道の楽しさを感じてもらうとともに、在来線の利用促進を図った。

実施期間：平成30年7月20日（金）～9月2日（日）

実施区間：日本海ひすいライン（直江津駅～市振駅）、妙高はねうまライン（直江津駅～妙高高原駅）、ほくほく線（犀潟駅～六日町駅）

スタンプ設置駅：日本海ひすいライン3駅、妙高はねうまライン8駅、ほくほく線10駅（計21駅）

景品引換人数：トキ鉄制覇賞118人、ほくほく線制覇賞134人、全駅制覇賞101人（計353人）

## ・「雪月花」の他路線乗り入れ時のおもてなしに協力

「えちごトキめきリゾート雪月花」が、しなの鉄道の観光列車「ろくもん」との相互乗り入れ及びほくほく線への乗り入れを初めて実施することとなり、列車の出迎えや見送り等のおもてなしに協力し、駅の賑わい創出や交流促進を図った。

実施時期：平成30年4月7日（金）、13日（土） しなの鉄道「ろくもん」との相互乗り入れ  
平成30年9月7日（金） ほくほく線への乗り入れ

決算書 (P128～P129)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	並行在来線対策事業		

実施内容：上越商工会議所やおもてなし武将隊、一般市民、近隣保育園児らとともに、高田駅や上越妙高駅、直江津駅のホームで、乗客の見送り・出迎えを実施した。

(2) えちごトキめき鉄道安定経営支援補助金

県及び沿線市で締結した『並行在来線への投資・支援スキーム』に関する覚書に基づき、えちごトキめき鉄道安定経営支援補助金を交付した。

	補助金額	補助金の使途
平成28年度	80,333	トンネル鋼管下束取替え、トロリ線張り替え、木マクラギ交換、大型支障物検知装置取替え
平成29年度	85,359	吊架線張り替え、き電線張り替え、可動ブラケット取替え、電車線支持用鋼管下束の取替え、高圧変圧器取替え、電子踏切制御器取替え、大型支障物検知装置取替え、橋梁ペイント塗り替え
平成30年度	62,595	吊架線張り替え、き電線張り替え、可動ブラケット取替え、高圧変圧器取替え、電子踏切制御装置取替え、連絡遮断装置取替え、大型支障物検知装置取替え、橋梁ペイント塗り替え

(3) 北越急行安全輸送設備等整備事業補助金

北越急行株の経営安定化に向け、同社が行う国庫補助事業に対して県及び沿線自治体が協調補助を行うスキームに基づき、北越急行安全輸送設備等整備事業補助金を交付した。

	補助金額	補助金の使途
平成28年度	5,326	ハンガー更新、レール更新、融雪設備更新、自動列車停止装置更新、列車無線装置更新、変圧器更新、覆工コンクリート補強、車両の全般検査
平成29年度	7,988	ハンガー更新、レール更新、遮断器更新、融雪設備更新、自動列車停止装置更新、列車無線装置更新、変圧器更新、覆工コンクリート補強、鉄筋コンクリート桁補強、車両の全般検査、車両の重要部検査
平成30年度	2,332	ハンガー更新、レール更新、遮断器更新、融雪設備更新、自動列車停止装置更新、変圧器更新、覆工コンクリート補強

(4) 信越本線の利便性向上及び利用促進

国及びJR東日本に対し、上越・北陸新幹線直行特急実現期成同盟会や新潟県鉄道整備促進協議会を通じて、優等列車の充実、上越新幹線及び北陸新幹線との接続性確保、悪天候時等における安定輸送の確保など、在来鉄道の利便性向上や利用促進について要望活動を実施した。

○目標達成状況

- 平成31年3月16日(土)のダイヤ改正において、えちごトキめき鉄道では、安定経営に向けた経費節減の一環として、利用者が著しく少ない便について、はねうまラインで1往復、ひすいラインで1便を減便した一方、はねうまラインにおいては、上りの最終便の運行区間の延伸や下りの最終便の時間延長を行い、利用者の利便性の確保に努めた。
- ほくほく線では、朝の通勤・通学時間帯の普通列車が快速列車に変更され、上越新幹線との接続改善が図られた。あわせて、次発の快速列車を普通列車に変更し、快速列車が停車しない駅の利便性が維持された。

決算書 (P128～P129)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	並行在来線対策事業		

- ・ほくほく線では、平成30年7月から、土休日のみ越後湯沢駅及び直江津駅まで運行していた直通列車(5本)を金曜日にも運行することとし、利用者の利便性が向上した。
- ・えちごトキめき鉄道(株)及び北越急行(株)が行う鉄道施設総合安全対策事業等に対し、両社へ補助金を交付し、経営安定化を支援した。

#### 【事業の成果】

- ・えちごトキめき鉄道及びほくほく線については、新幹線との接続改善等により、利便性の維持・向上を図ることができた。
- ・えちごトキめき鉄道(株)及び北越急行(株)が行う鉄道施設総合安全対策事業等に対し補助金を交付することで、両社の経営安定化と鉄道の安全安定輸送に資することができた。
- ・昨冬の大雪を受け、鉄道事業者、県、市町村、関係団体が出席する鉄道輸送障害事案発生時の調整に係る関係機関連絡調整会議が開催され、大雪などの災害時における連絡・支援体制について確認を行った。なお、今冬は小雪であり、混乱は生じていない。

#### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・マイレール意識の醸成による在来鉄道利用者の増加を図るため、利用促進団体等の支援や市民協働による利用促進の取組を推進する。
- ・県及び沿線自治体と連携して、えちごトキめき鉄道(株)と北越急行(株)に対し、更なる経営安定化に向けた支援を継続する。
- ・朝や夕方時間帯は学生の通学時間帯と重なり利用者が多いことから、大雨や強風による災害、車両の不具合により列車の遅延や運休が発生した場合は、鉄道事業者に対し、運行情報の適時な周知とバスによる代替運行を求めていく必要がある。
- ・えちごトキめき鉄道(株)から令和2年4月の運賃改定が公表されたことを踏まえ、同社と連携した利用促進に引き続き努めるとともに、今後策定される中期計画を基に県及び沿線市とともに必要な対応を検討していく。

#### 【執行残額について】

その他：旅費等の実績が当初見込みを下回ったため 81

(単位：千円)

決算書 (P128～P129)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	町家交流館高田小町管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
10,096	9,625	324			1,473 (使用料助)	7,828
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	471	455			16	

## 【目的】

郷土の歴史的建造物を活用し、市民が集い、交流する場を提供することにより、賑わいと活力のある地域社会の形成を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

年間入館者数 28,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

- (1) まちなか回遊の拠点施設の一つとしての対応  
高田のまち歩きを行う市民や観光客の休憩スペースとして利用されたほか、パンフレット等を設置し、市内の観光地や文化に関する情報を提供した。
- (2) 集会・イベント、文化活動などの場の提供  
地域住民の会議や集会、習い事など、交流や文化活動、憩いの場として利用された。
- (3) 高田の歴史・文化の紹介  
ギャラリーを活用し、高田ならではの雁木や町家を解説した紹介パネルのほか、懐かしい暮らしやまちなみの写真を展示した。
- (4) 物品販売の実施  
ギャラリーに商品棚等を設置し、10月から社会実験として土産品等の物品販売を行った。
- (5) 施設修繕の対応 294
  - ・備品修繕料 27 (除雪機点検整備修繕)
  - ・営繕修繕料 267 (駐車場照明修繕、トイレ用自動水栓修繕ほか)

## ○施設の管理実績

<入館者数及び貸室利用状況>

年度	入館者数(人)	うち貸室利用者		
		利用件数(件)	利用人数(人)	使用料(円)
H28	25,596	1,466	15,476	1,755,901
H29	27,846	1,418	17,271	1,706,830
H30	28,785	1,312	14,095	1,420,451

決算書 (P128～P129)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	町家交流館高田小町管理運営費		

<平成30年度施設別の貸室利用件数及び人数> (単位：件・人)

ギャラリー1		ギャラリー2		和室1 (8畳)		和室2 (15畳)		多目的ホール		交流サロン		計	
件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
3	124	87	1,553	392	1,801	444	2,549	376	7,764	10	304	1,312	14,095

<施設管理における市の収支状況>

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	1,756	1,707	1,670	1,420
	その他	5	52	601	377
	合計	1,761	1,759	2,271	1,797
②支出	施設維持管理費	21,106	8,048	10,096	9,625
	うち委託料	5,472	6,028	6,991	6,989
	その他	-	-	-	-
	合計	21,106	8,048	10,096	9,625
③公費投入額 (②-①)		19,345	6,289	7,825	7,828
④利用者1人当たりの公費投入額 (単位：円)		756	226	279	272

○目標達成状況

年間入館者数 28,785人

【事業の成果】

- ・地域住民や市民団体等の定期的な活動や展示会など、様々な用途で利用された。
- ・10月から社会実験として物品販売を開始することで、観光客などの来訪者が気軽に立ち寄れる場をつくることができた。



町家交流館高田小町 物品販売の様子

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・物品販売を継続するなど、来訪者が滞在しやすい環境を整備し、まちなか回遊の拠点施設としての機能を高めていく。

【執行残額について】

事業費節減：物品販売所の設置に係る工事請負費、備品購入費の残 455

そ の 他：当初見込みを下回ったことによる光熱水費等の残 16

(単位：千円)

決算書 (P128～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	地域公共交通運行対策費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
365,170	361,942		26,877			335,065
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	3,228	2,698	124	3	403	

## 【目的】

- 上越市地域公共交通活性化協議会負担金：市民ニーズや地域の特性に応じた地域公共交通の充実に向け、市民、交通事業者、行政等が連携・協力し、効率的で利便性の高い公共交通ネットワークを構築する。
- バス運行対策費補助金：児童生徒の通学や高齢者の通院など、市民の日常生活を支える重要な交通手段である路線バスや乗合タクシーの運行に対し補助を行い、生活交通を維持・確保する。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■上越市地域公共交通活性化協議会負担金 3,464

## ○平成30年度目標

「上越市総合公共交通計画」及び「上越市バス交通ネットワーク再編計画」に基づき、持続可能な市内公共交通網への再編を進めるとともに、企画乗車券の周知や高齢者・学生を対象にした利用啓発チラシの作成など利用促進を図る。

きめ細かな公共交通ネットワークの構築を目指す次期総合公共交通計画の策定に向けて、乗降調査やアンケート調査を実施し、利用状況や移動実態を把握する。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・「上越市バス交通ネットワーク再編計画」に基づく、路線バス「青田線」「斐太線」「正善寺線」「黒岩線」「水野線」「南川線」「黒井駅線」の再編については、平成30年度に実施した調査結果を踏まえ、当初想定していた再編案と次期計画の基本方針が異なり、整合を図る必要が生じたことから、地域住民や総合事務所とバス路線再編について協議した。
- ・公共交通の利用促進を図るため、頸城自動車㈱主催の「バスの日フェスタ2018」に協力したほか、北陸新幹線や在来線、路線バスなど市内で運行している全ての公共交通の運行時刻やバス路線図のほか、生活に必要な行政情報や公共交通の企画乗車券等の情報をまとめた「上越市公共交通とくらしのガイド」を作成し、市内全世帯に配布した。
- ・公共交通機関での通学を啓発する資料を作成し、市内の高校1年生等に配布したほか、運転免許返納者や高齢者向けに公共交通の割引情報をまとめたリーフレットを作成し、警察署や病院等に設置した。また、路線バスに小学生以下50円、中・高校生100円で乗車できる「夏休みバス乗車体験キャンペーン」の対象路線として、新たに中郷区の乗合タクシーの路線を追加し、市内全域で乗車体験キャンペーンを実施した。

決算書 (P128～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	地域公共交通運行対策費		

- ・次期総合公共交通計画の策定に向けて、市内の路線バスの利用状況を把握するため、調査員がバスに乗り、利用者に聞き取りを行う乗降調査を実施した。また、高校生の通学利用のニーズや課題を把握するため、高校1・2年生等3,903人を対象に高校生アンケートを行ったほか、高齢者等の移動の実態や課題、公共交通に対する意見を把握するため、町内会長や民生委員、運転免許返納者等への聞き取り調査を実施した。

○目標達成状況

- ・「上越市バス交通ネットワーク再編計画」に基づくバス路線の再編については、次期計画の基本方針と整合を図る必要が生じたことから、平成30年度の調査結果を踏まえ、次期計画の路線再編の考え方に合った具体的な再編案を地域と検討することとした。
- ・運転免許返納者や高齢者を対象としたリーフレットを作成し、公共交通の割引情報を周知したことにより、「おでかけフリー定期券」など路線バスの割引乗車券の販売枚数が増加した。また、「夏休みバス乗車体験キャンペーン」により、期間中の小・中・高校生の路線バス利用者が約16%増加した。
- ・次期総合公共交通計画の策定に向けた現状調査を実施し、乗降調査で5,932人、高校生アンケートで3,557人（回収率91.1%）、聞き取り調査で2,847人から聞き取りを行い、昨年度に実施した公共交通に関するアンケートの2,745人（回収率44.1%）と合わせて延べ15,081人のデータを踏まえ、バス路線再編の方向性を整理した。

■バス運行対策費補助金 356,166

○平成30年度目標

市民の日常生活を支える路線バスや乗合タクシー72系統の運行を維持・確保する。

○実施内容、これまでの経過等

市民の日常生活を支える路線バスや乗合タクシーの運行を維持・確保するため、バス事業者（5社）及びタクシー事業者（2社）に補助金を交付した。

<補助区分別系統数及び市補助金額>

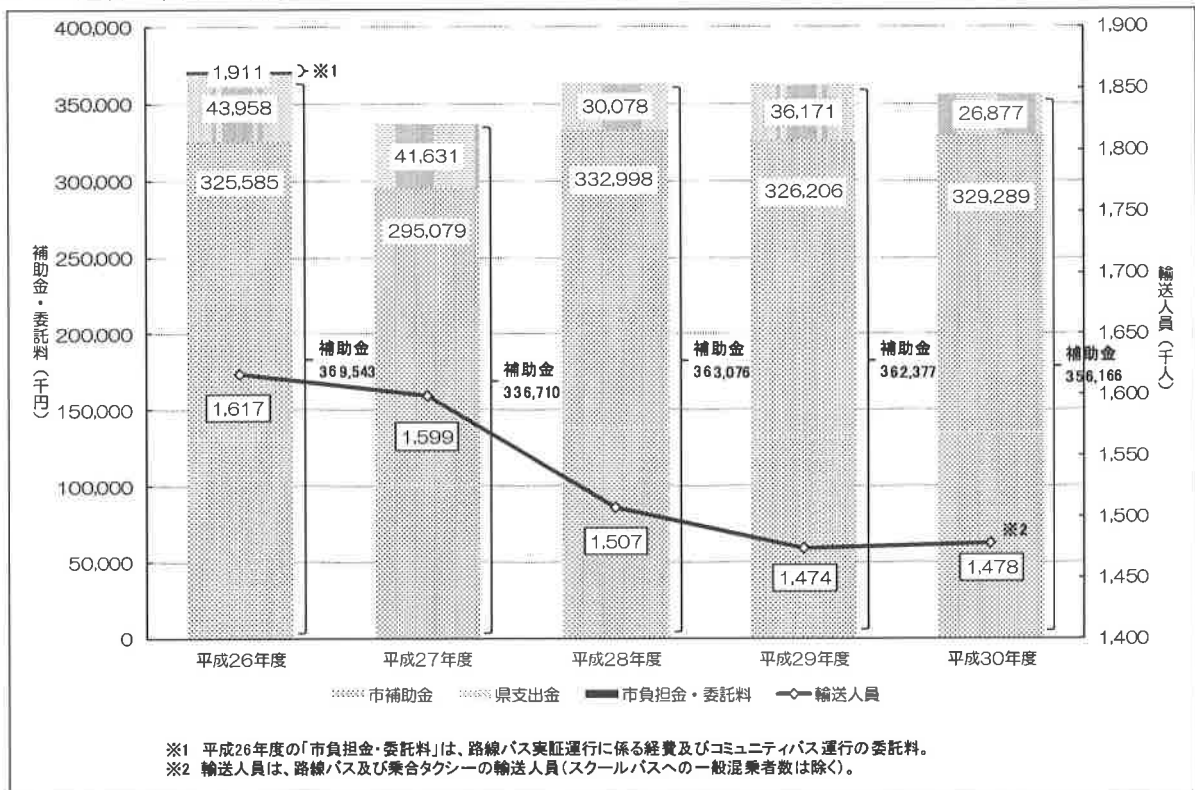
路線種別	系統数		補助金額	備考
	当初	実績		
国庫補助路線 (幹線系統)	7	7	65,605	低収益路線の収入不足及び欠損から国庫補助、県協調補助を差し引いた額を負担
国庫補助路線 (フィーダー系統)	21	21	38,937	負担割合：国50%
県単独補助路線	16	16	96,916	負担割合：県35%～40%、市65%～60%
市単独補助路線	28	29	154,708	負担割合：市100% *平成29年度の再編による対象路線1系統の増加
合計	72	73	356,166	

決算書 (P128～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・交通政策課)
事業名	地域公共交通運行対策費		

○目標達成状況

バス路線73系統の運行補助を行い、市民の生活交通を維持・確保した。

＜バス運行に関する補助金・負担金・委託料及び輸送人員の推移＞



【事業の成果】

「上越市バス交通ネットワーク再編計画」に基づく路線バスの利用促進により、「おでかけフリー定期券」など企画乗車券の販売枚数が増加したほか、次期総合公共交通計画の策定に向けて行った調査により、路線バスの利用状況や市民の移動実態などの現状を把握し、バス路線再編の方向性を整理することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

上越市地域公共交通再編実施計画の計画期間終了に伴う特例措置の廃止や利用者減に伴う県単補助対象路線の減少により、令和2年度以降、国県補助金が減額となり、市の補助金が増加することが見込まれる一方、高齢化の進行や運転免許返納者の増加に伴い、公共交通に求められる役割が高まっている。このため、次期計画においては、路線バスの厳しい現状を市民と共有するとともに、路線バスの効率化や乗合タクシー等への運行形態の転換、更には利用者が少ない路線を廃止する一方で、互助・共助による移手段の確保について地域と協議を進め、持続可能な交通ネットワークの構築に向けた取組を進めていく。



決算書 (P128～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	地域公共交通運行対策費		

【執行残額について】

事業費節減：「公共交通とくらしのガイド」を広告収入で作成したため	621
次期総合公共交通計画の策定に係る調査を職員が実施したため	2,077
事業未実施：路線バスの見直しを次期総合交通計画の策定に合わせて実施することとしたことに伴い、再編の周知チラシや評価・検証アンケートを見直したため	124
入札差金：公共交通利用促進リーフレット等作成	3
その他：バス運行対策費補助金や協議会事務費等が当初見込みを下回ったため	403

決算書 (P128～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	地域公共交通運行対策費		

<参考>平成30年度路線別バス運行対策費補助金一覧

【国庫補助路線（地域間幹線系統）】

系統番号	路線名	起点～(主な経由地)～終点	運行回数	乗車 走行キロ	平均乗 車密度	経常費用
幹1	浜線	鶴の浜～柿崎病院前～柿崎バスターミナル	6.6	40,709.6	0.3	13,680,461
幹2	上越大通り線(1)	上越妙高駅前～市役所・労災病院前～鶴の浜	13.9	257,721.5	2.1	86,607,310
幹3	上越大通り線(3)	中央病院～上越妙高駅前～新井バスターミナル	10.9	129,034.3	2.2	43,361,976
幹4	直江津・浦川原線(1)	マルケーバスセンター～浦川原小学校前～浦川原バスターミナル	4.9	70,811.6	2.1	23,796,238
幹5	名立線(1)	労災病院前～うみでらす名立前～コミュニティプラザ前	3.0	40,774.7	0.5	12,195,712
幹6	宮口線(1)	高田駅前～上牧～深山荘	5.0	72,829.8	2.2	21,385,014
幹7	宮口線(2)	高田駅前～中央病院～牧小学校前	5.0	48,274.3	1.6	14,174,782
7系統						
小計				660,155.8		215,201,493

【国庫補助路線（地域内フィーダー系統）】

系統番号	路線名	起点～(主な経由地)～終点	運行回数	乗車 走行キロ	平均乗 車密度	経常費用
F1	柿崎黒岩線(2)	柿崎バスターミナル～米山寺・下灰庭～黒岩	3.0	11,287.8	0.9	4,455,294
F2	安塚線	うらがわら駅前～虫川大杉駅前～保健センター前	9.0	29,862.0	1.4	6,659,226
F3	島田線	高田駅前～岡原～曾根田	5.0	46,199.4	0.9	13,564,143
F4	佐内・直江津循環線	佐内入口～労災病院前～直江津駅前	4.0	22,932.4	0.7	6,859,080
F5	真砂・岡田線	高田駅前～真砂寺前～北坪山上	4.0	27,508.9	1.0	8,076,613
F6	直江津・浦川原線(2)	保倉川橋～青野十文字～マルケーバスセンター	2.0	21,403.2	1.0	7,192,545
F7	大平線(1)	浦川原小学校前～虫川大杉駅前～大島コミュニティプラザ前	3.0	16,552.8	0.6	3,691,274
F8	大平線(2)	浦川原小学校前～虫川大杉駅前～小谷島	2.0	7,550.4	0.5	1,683,739
F9	吉川西部循環線(くびき駅経由)	吉川区総合事務所前～くびき駅前～吉川区総合事務所前	4.0	19,273.0	1.8	7,607,053
F10	吉川西部循環線(上下浜駅経由)	吉川区総合事務所前～上下浜駅前～吉川区総合事務所前	4.0	18,581.4	6.4	7,334,078
F11	青柳線(1)	高田駅前～中央病院・下稲塚～青柳	1.0	14,081.4	1.0	4,134,299
F12	青柳線(2)	高田駅前～中央病院・松野本～青柳	1.0	18,531.6	1.3	5,440,877
F13	岡沢ルート(予約運行便)	新井バスターミナル～中郷区総合事務所前～岡沢	4.0	-	-	3,734,464
F14	関山ルート(予約運行便)	新井バスターミナル～姫川原～コメリ前	3.5	-	-	4,814,088
F15	月影・下保倉・米立ルート(1)	谷～浦川原区中心部～うらがわら駅前	12.0	-	-	5,043,862
F16	月影・下保倉・米立ルート(2)	谷～浦川原区中心部～うらがわら駅前	1.0	-	-	246,635
F17	上栢野ルート	うらがわら駅前～上栢野～うらがわら駅前	2.0	-	-	108,317
F18	小麦平ルート	うらがわら駅前～小麦平～うらがわら駅前	2.0	-	-	112,738
F19	名立区自家用有償旅客運送(1)	うみでらす名立前～ろばた館前～東飛山	2.0	22,976.4	-	4,311,980
F20	名立区自家用有償旅客運送(2)	コミュニティプラザ前～ろばた館前～東飛山	5.0	37,203.3	-	6,981,943
F21	名立区自家用有償旅客運送(3)	コミュニティプラザ前～名立駅前～宝田小学校前	2.5	3,870.9	-	726,451
21系統				317,814.9		102,778,699

【県庫補助路線】

系統番号	路線名	起点～(主な経由地)～終点	運行回数	乗車 走行キロ	平均乗 車密度	経常費用
県1	南川線(1)	労災病院前～市村～海洋センター前～頸城中学校前	5.0	35,071.0	1.7	10,489,736
県2	南川線(2)	労災病院前～島田～海洋センター前	5.1	42,535.3	2.0	12,722,308
県3	教育大学線(1)	中央病院～教育大学～直江津駅前	6.0	57,647.8	2.0	17,242,456
県4	春日山線(1)	直江津駅前～春日山下～中央病院	4.0	39,371.3	2.0	11,775,955
県5	春日山線(2)	直江津駅前～春日山下～悠久の里前	4.0	39,013.9	2.0	11,669,057
県6	春日山・佐内線	佐内入口～春日山下～中央病院・悠久の里前	2.0	27,957.0	1.5	8,361,938
県7	富岡線	高田駅前～富岡～マルケーバスセンター	7.5	84,715.1	2.9	25,338,286
県8	能生線	能生案内所～名立車庫前～労災病院前	2.0	35,926.5	2.0	10,745,616
県9	水利・今保線	高田駅前～番町～杉林入口	4.0	24,637.2	1.7	7,233,481
県10	上関田線	板倉中学校～上関田	6.5	26,857.9	0.5	10,557,840
県11	新井・板倉線(2)	新井バスターミナル～針～板倉コミュニティプラザ前	5.5	17,806.4	2.5	6,999,695
県12	山直海線(2)	柿崎バスターミナル～原之町～村屋	4.0	28,299.0	2.1	11,169,615
県13	泉谷・勝徳循環線(1)	原之町～後生寺～吉川小学校前	5.0	21,490.9	1.4	8,482,458
県14	犀潟線	海洋センター前～犀潟駅前～海洋センター前	3.5	19,139.8	2.3	7,554,479
県15	黒井線	海洋センター前～黒井駅前～海洋センター前	3.5	31,318.2	1.0	12,361,293
県16	柳町線	海洋センター前～柳町～海洋センター前	3.0	10,771.2	1.9	4,251,392
16系統				542,558.5		176,955,605

決算書 (P128～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	地域公共交通運行対策費		

【単位：円】

経常収益	経常欠損	収支率	国庫補助 対象経費	市単補助 対象経費	国庫補助金①		県補助金②		市補助金④	
					国→事業者	県→事業者	国・県制度による補助	市独自補助	計	
1,159,678	12,520,783	8.4%	6,134,000	12,520,783	3,067,000	3,067,000	3,803,000	2,583,000	6,386,000	
29,267,099	57,340,211	33.7%	38,055,000	57,340,211	19,025,500	19,025,500	15,839,000	3,450,000	19,289,000	
16,709,432	26,652,544	38.5%	15,057,000	26,652,544	7,528,500	7,528,500	4,661,000	681,000	5,342,000	
8,582,387	15,213,851	36.0%	10,314,000	15,213,851	5,157,000	0	0	10,056,000	10,056,000	
1,218,617	10,977,095	9.9%	5,744,000	10,977,095	2,872,000	0	0	8,105,000	8,105,000	
7,442,833	13,942,181	34.8%	11,572,000	13,942,181	4,607,000	0	0	9,335,000	9,335,000	
4,029,055	10,145,727	28.4%	6,107,000	10,145,727	3,053,000	0	0	7,092,000	7,092,000	
68,409,101	146,792,392		92,983,000	146,792,392	45,310,000	29,621,000	24,303,000	41,302,000	65,605,000	

経常収益	経常欠損	収支率	国庫補助 対象経費	市単補助 対象経費	国庫補助金①		県補助金②		市補助金④	
					国→事業者	県→事業者	国・県制度による補助	市独自補助	計	
475,530	3,979,764	10.6%	3,238,000	3,979,764	1,447,000	0	0	2,532,000	2,532,000	
3,583,422	3,075,804	53.8%	3,076,000	3,075,804	1,374,000	0	0	1,701,000	1,701,000	
2,364,201	11,199,942	17.4%	11,201,000	11,199,942	5,003,000	0	0	6,196,000	6,196,000	
861,598	5,997,482	12.5%	6,684,000	5,997,482	2,986,000	0	0	3,011,000	3,011,000	
1,464,253	6,612,360	18.1%	6,613,000	6,612,360	2,954,000	0	0	3,658,000	3,658,000	
1,429,985	5,762,560	19.8%	5,613,000	5,762,560	2,507,000	0	0	3,255,000	3,255,000	
677,434	3,013,840	18.3%	3,014,000	3,013,840	1,346,000	0	0	1,667,000	1,667,000	
309,002	1,374,737	18.3%	1,375,000	1,374,737	614,000	0	0	760,000	760,000	
1,150,649	6,456,404	15.1%	5,191,000	6,456,404	2,318,000	0	0	4,138,000	4,138,000	
4,577,186	2,756,892	62.4%	1,537,000	2,756,892	686,000	0	0	2,070,000	2,070,000	
649,853	3,484,446	15.7%	3,484,000	3,484,446	1,556,000	0	0	1,928,000	1,928,000	
833,242	4,607,635	15.3%	4,608,000	4,607,635	2,058,000	0	0	2,549,000	2,549,000	
802,090	2,932,374	21.4%	3,415,000	2,932,374	1,526,000	0	0	983,000	983,000	
812,543	4,001,545	16.8%	3,582,000	4,001,545	1,791,000	0	0	1,071,000	1,071,000	
847,909	4,195,953	16.8%	2,290,000	4,195,953	1,023,000	0	0	3,172,000	3,172,000	
12,319	234,316	4.9%	179,000	234,316	79,000	0	0	155,000	155,000	
17,987	90,330	16.6%	104,000	90,330	46,000	0	0	44,000	44,000	
22,757	89,981	20.1%	95,000	89,981	42,000	0	0	47,000	47,000	
468,350	3,843,630	10.8%	3,843,000	3,843,630	1,717,000	0	0	0	0	
554,000	6,427,943	7.9%	6,427,000	6,427,943	2,870,000	0	0	0	0	
800	725,651	0.1%	725,000	725,651	323,000	0	0	0	0	
21,915,110	80,863,589		76,294,000	80,863,589	34,266,000	0	0	38,937,000	38,937,000	

経常収益	経常欠損	収支率	国庫補助 対象経費	市単補助 対象経費	国庫補助金①		県補助金②		市補助金④	
					国→事業者	県→事業者	国・県制度による補助	市独自補助	市補助金③+④	
3,866,623	6,623,113	36.8%	5,140,000	1,573,192	0	1,927,000	1,927,000	1,573,000	5,427,000	
5,063,426	7,658,882	39.7%	6,344,000	1,458,428	0	2,375,000	2,375,000	1,458,000	6,208,000	
6,667,952	10,574,504	38.6%	7,810,000	2,752,715	0	2,928,000	2,928,000	2,752,000	8,608,000	
4,792,099	6,983,856	40.6%	6,372,000	863,295	0	2,389,000	2,389,000	863,000	5,641,000	
4,669,872	6,999,185	40.0%	6,358,000	900,811	0	2,384,000	2,384,000	900,000	5,668,000	
2,178,361	6,183,577	26.0%	4,400,000	1,930,244	0	1,650,000	1,650,000	1,930,000	5,230,000	
15,151,346	10,186,940	59.7%	6,936,000	2,096,155	0	2,601,000	2,601,000	2,096,000	7,298,000	
3,139,887	7,605,729	29.2%	5,572,000	2,202,635	0	1,386,000	1,386,000	1,461,000	4,233,000	
1,631,208	5,602,273	22.5%	6,337,000	2,864,273	0	1,369,000	1,369,000	2,864,000	5,602,000	
977,828	9,580,012	9.2%	9,337,000	5,194,012	0	2,193,000	2,193,000	5,194,000	9,580,000	
3,620,284	3,379,411	51.7%	1,618,000	2,087,411	0	341,000	341,000	1,102,000	1,784,000	
3,344,947	7,824,668	29.9%	3,667,000	5,580,668	0	1,122,000	1,122,000	5,580,000	7,824,000	
1,478,143	7,004,315	17.4%	2,992,000	4,910,315	0	1,047,000	1,047,000	4,910,000	7,004,000	
3,006,734	4,547,745	39.8%	2,277,000	2,841,745	0	853,000	853,000	2,841,000	4,547,000	
2,891,369	9,469,924	23.3%	4,962,000	5,997,924	0	1,736,000	1,736,000	5,997,000	9,469,000	
1,457,527	2,793,865	34.2%	1,538,000	1,641,865	0	576,000	576,000	1,641,000	2,793,000	
63,937,606	113,017,999		81,660,000	44,895,688	0	26,877,000	26,877,000	43,162,000	96,916,000	

決算書 (P128～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	地域公共交通運行対策費		

【市単補助路線】

系統番号	路線名	起点～(主な経由地)～終点	運行回数	実車走行キロ	平均乗車密度	経常費用
市1	山麓線	直江津駅前～医療センター病院～上越妙高駅前	3.0	20,923.5	1.4	6,258,218
市2	鎌倉公大通り循環線	春日山駅前～上越総合病院～春日山駅前	6.0	22,395.1	0.9	6,698,374
市3	春日山駅・アルカディアシャトル便	春日山駅前～リージョンプラザ～上越総合病院	0.0	14,022.0	1.2	4,193,980
市4	鎌倉公大通り線	イトーヨーカドー前～国府新町～上越総合病院	1.5	2,601.9	1.5	778,228
市5	桑取線	労災病院前～有間川橋～くわどり湯つたり村	5.0	77,063.1	1.3	23,049,573
市6	青柳線(1)	高田駅前～下稲塚～青柳	3.0	27,293.6	1.0	8,013,400
市7	青柳線(2)	高田駅前～松野木～青柳	2.5	34,390.8	1.4	10,097,138
市8	浦川原線	高田駅前～善町～浦川原バスターミナル	5.0	76,160.0	1.3	22,360,576
市9	増田線(1)	高田駅前～横曽根～くびき駅前	3.0	27,550.0	0.7	8,088,680
市10	斐太線	新井バスターミナル～飛田～高田駅前	3.0	17,714.4	0.6	5,200,947
市11	正善寺線	大手町十字路・西城病院前～下正善寺～上正善寺	4.0	16,692.6	0.6	4,900,947
市12	青田線	高田駅前～中田原～青田	3.0	10,890.0	0.7	3,197,304
市13	菰立線	板倉中学校～菰立	6.5	15,107.4	0.3	5,938,718
市14	三針線	板倉コミュニティプラザ前～下稲塚～清里区総合事務所前	5.0	7,826.0	0.4	3,076,400
市15	泉谷・勝穂循環線(2)	原之町～平等寺～原之町	2.0	7,598.8	0.0	2,999,246
市16	くびき駅線	海洋センター前～くびき駅前～海洋センター前	3.5	21,731.6	1.2	8,577,462
市17	柿崎上直海線	柿崎バスターミナル～上直海～柿崎バスターミナル	2.0	46.6	1.5	18,393
市18	増田線(2)	柿崎バスターミナル～長峰～森本	4.0	19,126.7	0.2	7,549,308
市19	柿崎水野線	柿崎バスターミナル～米山寺～水野	3.0	9,255.1	0.3	3,652,987
市20	教育大学線(2)	パロー上越店前～教育大学～直江津駅前	2.5	26,783.0	1.4	8,010,795
市21	青柳線(3)	高田駅前～下稲塚～赤池	3.5	34,576.7	1.6	10,151,719
市22	山寺薬師線	板倉中学校～山寺薬師	7.0	27,598.4	0.5	10,848,931
市23	新井・板倉線(1)	けいなん総合病院～針～板倉コミュニティプラザ前	6.0	23,862.0	0.9	9,380,152
市24	柿崎黒岩線(1)	柿崎バスターミナル～米山寺～黒岩	3.0	9,301.6	0.3	3,671,341
市25	山直海線(1)	柿崎バスターミナル～村屋～尾神	5.0	49,850.6	1.6	19,676,031
市26	東西ルート	うらがわら駅前～浦川原区・大島区～大島コミュニティプラザ前	4.0	-	-	1,528,443
市27	岡沢ルート(定時運行)	新井バスターミナル～中郷区総合事務所前～岡沢	1.0	-	-	1,261,991
市28	関山ルート(定時運行)	新井バスターミナル～娘川原～コメリ前	0.5	-	-	873,904
市29	直江津・浦川原線(3)	マルケーバスセンター～労災病院前～浦川原バスターミナル	2.0	20,267.2	1.4	6,810,792
29系統 小計				620,628.7		206,863,978

※直江津・浦川原線(3)は国庫補助(地域間幹線系統)→市単へ変更

【合計】

系統	合計	運行回数	実車走行キロ	平均乗車密度	経常費用
73系統	合計		2,141,157.9		701,799,775

決算書 (P128～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	地域公共交通運行対策費		

經常収益	經常欠損	収支率	県単補助 対象経費	市単補助 対象経費	国庫補助金 ①		県補助金 ③		市補助金 ④		市補助金 ③+④
					国→事業者	県→市→事業者	国・県制度による補助	市独自補助			
1,599,665	4,658,553	25.5%	0	3,945,062	0	0	0	0	3,945,000	3,945,000	
1,188,464	5,509,910	17.7%	0	4,746,237	0	0	0	0	4,746,000	4,746,000	
750,303	3,443,677	17.8%	0	2,965,527	0	0	0	0	2,965,000	2,965,000	
333,023	445,205	42.7%	0	356,480	0	0	0	0	356,000	356,000	
5,256,029	17,793,544	22.8%	0	15,165,692	0	0	0	0	15,165,000	15,165,000	
1,509,560	6,503,840	18.8%	0	6,503,840	0	0	0	0	6,503,000	6,503,000	
1,938,932	8,158,206	19.2%	0	8,158,206	0	0	0	0	8,158,000	8,158,000	
5,298,493	17,062,083	23.6%	0	17,062,083	0	0	0	0	17,062,000	17,062,000	
1,128,616	6,960,064	13.9%	0	6,960,064	0	0	0	0	6,960,000	6,960,000	
632,639	4,568,308	12.1%	0	4,568,308	0	0	0	0	2,583,000	2,583,000	
805,976	4,094,971	16.4%	0	4,094,971	0	0	0	0	4,094,000	4,094,000	
579,724	2,617,580	18.1%	0	2,617,580	0	0	0	0	2,582,000	2,582,000	
487,018	5,451,700	8.2%	0	5,451,700	0	0	0	0	5,451,000	5,451,000	
290,902	2,785,498	9.4%	0	2,785,498	0	0	0	0	2,785,000	2,785,000	
30,858	2,968,388	1.0%	0	2,968,388	0	0	0	0	2,968,000	2,968,000	
1,266,069	7,311,393	14.7%	0	7,311,393	0	0	0	0	7,311,000	7,311,000	
3,848	14,545	20.9%	0	14,545	0	0	0	0	14,000	14,000	
288,169	7,261,139	3.8%	0	7,261,139	0	0	0	0	7,261,000	7,261,000	
186,689	3,466,298	5.1%	0	3,466,298	0	0	0	0	3,466,000	3,466,000	
2,214,216	5,796,579	27.6%	0	4,883,279	0	0	0	0	4,883,000	4,883,000	
3,112,056	7,039,663	30.6%	0	7,039,663	0	0	0	0	7,039,000	7,039,000	
1,163,505	9,685,426	10.7%	0	9,685,426	0	0	0	0	9,685,000	9,685,000	
1,759,332	7,620,820	18.7%	0	7,620,820	0	0	0	0	3,441,000	3,441,000	
176,637	3,494,704	4.8%	0	3,494,704	0	0	0	0	3,494,000	3,494,000	
4,221,471	15,454,560	21.4%	0	15,454,560	0	0	0	0	15,454,000	15,454,000	
52,841	1,475,602	3.4%	0	1,475,602	0	0	0	0	1,475,000	1,475,000	
162,680	1,099,311	12.8%	0	1,099,311	0	0	0	0	768,000	768,000	
176,667	697,237	20.2%	0	697,237	0	0	0	0	338,000	338,000	
1,614,204	5,196,588	23.7%	0	3,756,604	0	0	0	0	3,756,000	3,756,000	
38,228,586	168,635,392		0	161,610,217	0	0	0	0	154,708,000	154,708,000	

經常収益	經常欠損	収支率	国庫・県単補助 対象経費	市単補助 対象経費	国・県補助金①+②		県補助金 ③		市補助金 ④		市補助金 ③+④
					国・県→事業者	県→市→事業者	国・県制度による補助	市独自補助			
192,490,403	509,309,372	27.4%	250,937,000	434,161,886	109,197,000	26,877,000	51,180,000	278,109,000	356,166,000	356,166,000	

(単位：千円)

決算書 (P130～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	歴史的建造物等整備支援事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
15,974	15,498				14,850 (財源収入助)	648
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	476				476	

## 【目的】

市民団体等が行う歴史的建造物等の整備に要する経費に対して、歴史的建造物等整備支援基金を財源とし、市が補助金を交付することにより、歴史的建造物等の保全・活用と市民のまちづくりの機運の醸成を図り、市民主体のまちづくりを推進する。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

歴史的建造物等整備支援事業補助金の新規交付件数 4件

## ○実施内容、これまでの経過等

## &lt;制度概要&gt;

- ・対象事業：歴史的建造物及び産業遺産の保全又は改修に係る事業で、主体的なまちづくり活動による地域コミュニティの形成に資するもの
- ・補助率：3/4(限度額7,500千円)
- ・交付決定：補助金交付は、建築や歴史の専門家で構成する選定審査会の答申を経て決定する。

## &lt;実績等&gt;

- ・歴史的建造物等整備支援事業選定審査会の開催(3回) 106
- ・歴史的建造物等整備支援事業補助金交付(2件) 14,587
- ・基金への積立て 799
  - (内訳) 歴史的建造物等整備支援基金利子 33
  - 歴史的建造物等整備支援事業寄附金 766

決算書 (P130～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	歴史的建造物等整備支援事業		

<補助金の交付内容>

事業名	整備の内容	交付額
白田邸改修整備事業	国の登録有形文化財である白田邸の床下や外壁、谷木、戸袋、木製雨戸、袖垣などの改修	7,500
二本木駅構内歴史的建造物群整備事業	二本木駅駅舎の外壁や内装、厨房設備、空調設備などの改修	7,087
計	2件	14,587



白田邸の北面外観



二本木駅駅舎の東面外観

○目標達成状況

- ・歴史的建造物等整備支援事業補助金の新規交付件数 2件
- ・令和元年度に補助金交付（事業実施）となる新たな補助対象事業の認定 1件

【事業の成果】

白田邸は、定期的に市民への一般公開を行っている近代和風住宅であり、二本木駅は、地域の団体が運営を行っているスイッチバック式の構造を有する駅である。本事業により、市民の主体的なまちづくりを推進し、歴史的建造物の保存とともに、地域コミュニティの形成や誘客のための環境整備が図られた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

整備支援を希望する人及び団体の情報収集や動向把握を積極的に行い、補助制度の活用を促進していく。

【執行残額について】

その他：報償費等の残 63

補助金の実績が当初見込みを下回ったことによる残 413

(単位：千円)

決算書 (P130～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	定住促進奨学金貸付事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
304	269					269
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	35				35	

## 【目的】

本市に居住し市外の大学等に通学する学生に対し奨学金（通学費）を貸し付け、卒業後の地元就職に対するインセンティブを設けることで将来にわたる定住を促す。

平成 30 年 度 の 取 組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

- ・奨学金を利用しようとする人に制度が理解されるよう周知を行う。
- ・奨学生に対する貸付・返還業務を円滑に行う。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・基金の適正な運用を図り、貸付・返還業務を行った。
- ・開始年度：平成28年度
- ・基金総額：2億円
- ・対象者：次の要件のいずれにも該当する者
  - ①上越市に居住する30歳未満の者
  - ②大学、大学院、高等専門学校（専攻科を含む。）及び専修学校（専門課程に限る。）に在学する者
  - ③主として公共交通機関（鉄道、路線バス等）を利用し、通学している者
- ・貸付額：定期代の合計額の範囲内で、月額5万円まで
- ・貸付期間：貸付決定の月から学校の最短修業年限の終期までの間で申込者が希望する期間
- ・返還：貸付が終了した月の翌月から起算して、6月を経過した後、4年以上8年以内の期間内に返済（無利子）
- ・返還免除：返還期間中に本市に居住し、かつ、事業所等に就業したとき、その期間中における奨学金返還額の2/3を免除



決算書 (P130～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	定住促進奨学金貸付事業		

○目標達成状況

- ・広報上越やホームページに掲載するとともに、市内の高等学校や通学100分圏内の大学等及び公共交通機関へチラシ、ポスターの配布を行うなど、奨学金制度の周知を図った。
- ・奨学生からの申請書類を受付後、速やかに審査するなど、貸付・返還業務を円滑に行った。

【事業の成果】

<申込状況>

区分	28年度	29年度	30年度	合計
計	20人	12人	18人	50人
男	6人	3人	9人	18人
女	14人	9人	9人	32人

<利用状況（平成30年度末現在）>

区分	貸付	貸付休止	返還		返還猶予	その他 (辞退)	
			うち免除	うち完済			
計	29人	2人	16人	12人	1人	2人	1人
男	11人	1人	6人	3人	1人	0人	0人
女	18人	1人	10人	9人	0人	2人	1人

- ・通学方法（乗り継いでいる場合があるので利用者数と一致しない）

新幹線	在来線	路線バス	路面電車
7人	25人	3人	1人

- ・通学先の市町村

県内 (20人)		県外 (9人)				
長岡市	柏崎市	長野市	上田市	富山市	射水市	高崎市
16人	4人	5人	1人	1人	1人	1人

- ・学校種別

4年制大学 (7人)		短期大学 (2人)		高等専門学校 (1人)		専修学校 (19人)	
県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外
5人	2人	0人	2人	0人	1人	15人	4人

決算書 (P130～P131)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	定住促進奨学金貸付事業		

<貸付金残高の状況>

29年度末 現在高(A)	30年度			30年度末現在高 (A)+(B)-(C)-(D)
	貸付(B)	返還(C)	免除(D)	
8,722,932円	6,266,793円	297,075円	257,000円	14,435,650円

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

引き続き、大学や高校、交通事業者等と連携し周知を図るとともに、事業のPR方法を工夫、検討し、奨学金を必要とする人に適切に貸付できるようにする。

**【執行残額について】**

その他：返還猶予による繰出金の減 32  
 消耗品費の残ほか 3

(単位：千円)

決算書 (P132～P133)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	旧直江津銀行管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
3,887	3,109				44 (諸収入)	3,065
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	778		216	98	464	

## 【目的】

近代直江津の歴史を感じることができる施設として適切に維持管理するとともに、公開だけでなく、施設の活用により地域の賑わいの創出を図る。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成 30 年度目標

オープン初年度となることから、建物の公開・催しの実施のほか、周知・PR等により、利活用の推進を図る。

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 建物の供用開始に向けた準備

建物の供用開始に向け、建物の概要や沿革、北前船に関する文化財などの紹介パネルを作成したほか、直江津地区及び地元町内会の市民等を対象とした建物の内覧会を実施した。

## (2) 施設の維持管理 3,109

- ・修繕料 87 (瓦屋根破損修繕)
- ・委託料 52 (機械警備業務委託、消火器点検業務委託)
- ・備品購入費 2,215 (フロアスタンド、展示パネルほか)
- ・消耗品、光熱水費ほか 755

## ○目標達成状況

耐震改修工事の完了が遅れたため、平成 31 年 4 月のオープンとなったが、周辺施設等にチラシやポスターを配布するなど、ライオン像のある館の周知・PRを図った。

決算書 (P132～P133)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	旧直江津銀行管理運営費		

#### 【事業の成果】

- ・施設のポスターやチラシを水族博物館「うみがたり」や上越妙高駅等の市内施設に配置したほか、地域住民やメディアに向けた内覧会を実施するなど、オープン前に積極的に周知・PRを行い、ライオン像のある館の認知度の向上を図った。
- ・平成30年5月に日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 北前船寄港地・船主集落」の構成文化財の1つとして認定されるとともに、平成31年3月に市の文化財に指定された。

#### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

当施設は、直江津界隈の歴史・文化の紹介のほか、建物の趣をいかした様々な催しに利用できることを踏まえ、民間事業者や文化団体等の多様な主体による利活用を通して、地域の賑わいの創出につなげていく必要がある。

#### 【執行残額について】

事業未実施：印刷製本費、自動体外式除細動器借上料等 216

入札差金：委託料 35、備品購入費 63

その他：当初見込みを下回ったことによる消耗品費、光熱水費等の残 464



ライオン像のある館（旧直江津銀行）

外観



ライオン像のある館（旧直江津銀行）

ホールの様子

(単位：千円)

決算書 (P136～P137)	2款1項14目 上越文化会館運営費	所管課等	文化振興課
事業名	上越文化会館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
103,965	99,583			20,000		79,583
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	4,382			1,883	2,499	

## 【目的】

気軽に文化・芸術に触れる機会や文化活動の発表の場を市民へ提供し、市民の文化・芸術への関心を高めるとともに、市民ニーズに対応した事業を実施することで文化の向上を図る。

指定管理者と連携して利便性の高い、また安全で安心して利用できる施設として適切な管理運営を行う。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

鑑賞事業来場者の満足度 95.0%以上

※来場者へのアンケートで「良い」「どちらとも言えない」「良くない」の評価項目のうち、「良い」と評価した人の割合(鑑賞事業の平均値)

## ○実施内容、これまでの経過等

## ＜指定管理の状況＞

導入開始年度：平成17年度

指定期間：平成28年度～平成30年度

指定管理者名：株式会社 NKSコーポレーション(本社：新潟市)

## ＜自主事業の内容＞

(単位：人)

区分	事業名	入場(参加)者数
鑑賞事業 単独事業	若き演奏家の世界(クラシック)	418
	風間杜夫落語独演会(はーとぴあ中郷)	223
	この子たちの夏(朗読劇)	160
	キッズのためのはじめての音楽会	198
	南こうせつコンサートツアー2018	897
	アニソンBIG3スーパーライブ	328
	中孝介&元ちとせ(ポップス)	380
	シエナ・ウインドオーケストラ×上越市民吹奏楽団ジョイントコンサート	1,013

決算書 (P136～P137)	2款1項14目 上越文化会館運営費	所管課等	文化振興課
事業名	上越文化会館管理運営費		

区分	事業名	入場(参加)者数		
鑑賞事業	単独事業	Maro と N 響の仲間たち	255	
		人形劇団プーク 怪じゅうが町にやってきた	365	
		聲明 螺旋曼荼羅海会～らせんまんだらかいえ～	230	
		ごらく亭(落語)	93	
		スイートボイス(コーラス)	63	
		林家正蔵古典落語会	262	
		Small Compact Performance(中ホール)		
		渡辺 香津美(ジャズギター)	170	
		国府弘子・宮本貴奈(ピアノ)	164	
		N 響メンバーによる金管5重奏(ブラスアンサンブル)	109	
		柴田晶子・飯田俊明(口笛・ピアノ)	102	
		小計 18事業	5,430	
		共催事業	宝塚歌劇雪組 誠の群像	2,732
			新潟県音楽コンクール ピアノ部門	150
			ビリー・ヴォーン・オーケストラ 2018	748
			キエフ・クラシック・バレエ	345
			劇団四季 ソング&ダンス	1,372
			松山千春コンサートツアー2018	1,450
小計 6事業	6,797			
創造事業	小川未明フェスティバル 2018	171		
	くびき野の歌 合唱ワークショップ	104		
	くびき野の歌 演劇ワークショップ			
	第1回上越マーチングバンド演奏会	466		
	小計 4事業	741		
普及・育成事業	フラメンコ(鈴木真澄、永瀧三貴生、尾藤大介)	731		
	能楽のお話と笛と小鼓(高井松男、栗林祐輔、大山容子)	558		
	ヴァイオリンデュオ(牧田由起、佐々木友子)	376		
	オクタピストとピアノ(石塚勇、田村淳一)	720		
	和太鼓(上田秀一郎)	790		
	上越マーチングバンド育成事業	650		
	上教大×上越文化会館コラボ企画 第6回春の特別音楽講座	107		
	小計 7事業	3,932		
合計	35事業	16,900		

※鑑賞事業(単独) : 市が直接招へいする事業

※鑑賞事業(共催) : 市とテレビ局等の共催相手が共同で招へいする事業

※創造事業 : 新たな文化・芸術活動をつくり出す市民参加型の事業

※普及事業・育成事業 : 町内会や小・中学校に出向いてのアウトリーチ、演劇や演奏のワークショップ等、市民の文化意識の向上を図ることを目的とする事業

決算書 (P136～P137)	2款1項14目 上越文化会館運営費	所管課等	文化振興課
事業名	上越文化会館管理運営費		

○施設の管理実績

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
			計画	実績
利用件数	1,077件	997件	-	856件
利用者数	141,834人	123,217人	150,000人	100,371人

○指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	
				予算	実績
①収入	国庫支出金	34,383	30,000	-	-
	市債	-	-	23,500	20,000
	諸収入	1,900	1,000	-	-
	合計	36,283	31,000	23,500	20,000
②支出	指定管理委託料	64,600	64,200	63,800	63,800
	施設管理委託料	-	-	519	518
	設計業務委託料等	-	1,631	-	-
	施工監理委託料	-	-	1,588	1,167
	報償費	39	39	34	34
	費用弁償	1	1	2	1
	修繕料	5,015	7,658	7,454	7,454
	施設整備工事	48,464	69,751	25,902	22,459
	備品購入費	667	3,746	3,539	3,024
	補助金・交付金	5,482	1,000	-	-
	指定管理者営業補填金	-	-	1,127	1,126
合計	124,268	148,026	103,965	99,583	
③公費投入額(②-①)		87,985	117,026	80,465	79,583
④利用者1人当たりの公費投入額(単位:円)		620	950	536	793

○指定管理の導入効果等

指定管理者のノウハウをいかしながら、一流のアーティストによる公演や市民参加型事業の実施など、市民が身近に芸術活動に触れる機会を積極的に提供し、文化・芸術の普及を図っている。

また、平成28年度から国内屈指の吹奏楽団と連携し、子どもたちを対象にしたワークショップを開催しているほか、平成30年度に「上越マーチングバンド」を新たに結成し、第1回の演奏会を開催するなど、次世代を育成する事業を積極的に展開している。

<経費縮減効果>

導入前の過去3か年(平成14～16年度)の一般財源負担平均額(決算ベース)	①※	108,200
平成30年度の指定管理料(委託料)	②	63,800
経費縮減効果	①-②	44,400

①※の額は、消費者物価指数の増額分及び平成20年度追加業務などの増額分を含む。

決算書 (P136～P137)	2款1項14目 上越文化会館運営費	所管課等	文化振興課
事業名	上越文化会館管理運営費		

(参考) 指定管理者導入施設における指定管理者の収支状況

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
			予算	実績	
収入	利用料金収入	21,785	19,086	21,000	16,455
	指定管理委託料	64,600	64,200	63,800	63,800
	市イベント等委託料等	768	5,037	-	※ア 2,657
	補助金	1,900	3,338	-	※イ 865
	その他(入場料等)	19,819	17,759	45,738	21,903
	収入計 ①	108,872	109,420	130,538	105,680
支出 ②	106,032	110,334	130,538	117,332	
差引 (①-②)	2,840	△914	0	△11,652	

※ア…市委託事業(北前ザンブリコ)

※イ…新潟県文化振興財団助成金(劇団四季 ソング&ダンス)

○目標達成状況

鑑賞事業来場者の満足度 93.3%

【事業の成果】

- ・鑑賞事業では、クラシック、ポピュラー音楽、ミュージカル、演劇、大衆芸能等の公演のほか、子ども向けの演奏会や人形劇を開催するなど、多彩な公演を幅広い年齢層に提供し、多くの市民が様々な文化・芸術作品に触れる機会を提供した。
- ・創造事業では、国民文化祭において再演する市民創作音楽劇「くびき野の歌」に向け、合唱及び演劇のワークショップを開催するなど、市民とともに創り上げる事業を展開した。
- ・普及・育成事業では、アーティストが小・中学校や町内会へ出向き出張公演を行う「アウトリーチ事業」を15か所で実施し、身近な場所でプロの演奏を気軽に鑑賞できる機会を提供した。
- ・施設の維持管理については、2階ホワイエトイレ改修工事やセキュリティカメラの設置など、市民が快適に利用できる環境を整えた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・指定管理者が実施した自主事業については、規模が大きく、かつ質の高いコンサート等を行ったが、入場者が伸びず支出が収入を大きく超過することとなった。今後、自主事業については、内容と採算性のバランスを考慮し、実施していく必要がある。
- ・建物及び設備の老朽化が進んでいることから、中長期的な活用を視野に入れた改修等を計画的に進めていく。

【執行残額について】

入札差金：委託料 11、工事請負費 1,358、備品購入費 514

その他：当初見込みを下回ったことによる委託料及び工事請負費の残ほか 2,499



(単位：千円)

決算書 (P140～P141)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	高田城三重櫓管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
15,174	14,842				6,457 (使用料、財産収入)	8,385
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	332			161	171	

## 【目的】

高田城を象徴する施設として適切な維持管理を行うほか、歴代藩主や高田城にまつわる様々な資料の展示を通じて高田城や城下町の歴史と文化を観光客や市民に周知し、教育・学術及び文化の振興を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

年間入館者数 33,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 常設展示、開館時間の延長

高田城の築城に関する説明や沿革のほか、高田城主ゆかりの資料を展示するとともに、観桜会やゴールデンウィーク、蓮まつり期間中において、開館時間の延長やライトアップを行った。

## (2) 施設の維持管理 14,842

- ・修繕料 5,846 (管理棟木製ガラス戸修繕、三重櫓空調設備更新修繕ほか)
- ・委託料 6,398 (管理受付業務委託、消防設備点検業務委託ほか)
- ・消耗品費、光熱水費ほか 2,598

## ○施設の管理実績

## &lt;入館者数及び入館料の推移&gt;

年度	入館者数(人)	入館者数(人)		入館料(円)
		有料入館者数	無料入館者数	
H28	32,345	28,512	3,833	7,381,585
H29	29,166	25,935	3,231	7,041,450
H30	27,445	24,280	3,165	6,352,560

決算書 (P140～P141)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	高田城三重櫓管理運営費		

<催事期間中の入館者数の推移>

年度	観桜会		ゴールデンウィーク		蓮まつり		冬期開館※	
	人数 (人)	日数 (日)	人数 (人)	日数 (日)	人数 (人)	日数 (日)	人数 (人)	日数 (日)
H28	13,616	17	2,961	13	3,872	26	463	25
H29	12,314	17	2,909	16	3,259	26	355	26
H30	6,908	17	2,826	14	3,460	26	415	23

※1～2月の金、土、日曜日及び祝日に開館

<施設管理における市の収支状況>

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	7,382	7,041	8,740	6,352
	その他	-	105	105	105
	合計	7,382	7,146	8,845	6,457
②支出	施設維持管理費	10,824	11,703	14,688	14,356
	うち委託料	6,825	7,289	6,598	6,398
	その他	741	50	486	486
	合計	11,565	11,753	15,174	14,842
③公費投入額(②-①)	4,183	4,607	6,329	8,385	
④利用者1人当たりの 公費投入額(単位:円)	129	158	192	306	

○目標達成状況

年間入館者数 27,445人

【事業の成果】

平成30年7月に歴史博物館がオープンしたことに伴い、歴史博物館と高田城三重櫓の両施設を見学できる2館共通券の販売を開始し、7月以降の入館者数は、平成29年度に比べ2,022人増加した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

平成30年度は、観桜会期間中の入館者が減少したが、6月以降は増加に転じている。今後も歴史博物館等と連携してPRを行うことで、入館者数の増加を図るとともに、まちなかへの回遊や賑わい創出につなげていく。

【執行残額について】

入札差金:委託料 161

その他:当初見込みを下回ったことによる光熱水費、下水道使用料等の残 171

(単位：千円)

決算書 (P140～P141)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	旧師団長官舎管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
10,387	9,701	2,959			80 (使用料)	6,662
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	686			360	326	

## 【目的】

市指定文化財であり、市内に残る明治期の貴重な洋風建築である施設を適切に管理するとともに、施設の見学や貸室の利用を通して、教育・学術及び文化の振興を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

年間入館者数 7,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 集会、イベント、文化活動等の場の提供

明治期の貴重な洋風建築として当施設を公開し、文化団体等の利用のほか、一日限りのレストランや雑貨の販売、写真撮影等の会場として活用された。

## (2) 施設の維持管理 3,783

- ・修繕料 292 (外壁塗装修繕、2階本襖修繕ほか)
- ・委託料 3,339 (管理受付業務、園庭樹木管理業務ほか)
- ・光熱水費、下水道使用料ほか 152

## (3) 活用改修案の検討 5,918

旧師団長官舎の更なる活用に向け、構造などの詳細な調査や保存活用改修案の検討を行った。

## ○施設の管理実績

<入館者数及び使用料等の推移>

年度	入館者数(人)	うち貸室(人)	使用料(円)
H28	5,444	870	57,920
H29	7,497	1,144	69,540
H30	6,215	1,262	80,200

決算書 (P140～P141)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	旧師団長官舎管理運営費		

<施設管理における市の収支状況>

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度		
			予 算	実 績	
①収入	使用料収入	58	70	57	80
	その他	-	-	-	-
	合計	58	70	57	80
②支出	施設維持管理費	3,745	4,529	4,102	3,783
	うち委託料	3,382	3,637	3,582	3,339
	その他	-	-	6,599	5,918
	合計	3,745	4,529	10,701	9,701
③公費投入額 (②-①)	3,687	4,459	10,644	9,621	
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位：円)	677	595	1,521	1,548	

○目標達成状況

年間入館者数 6,215 人

【事業の成果】

旧師団長官舎の更なる活用に向けて、民間事業者から広く活用方法について提案や意見を募るサウンディング型市場調査を実施し、レストラン等での活用の可能性を確認することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

「城下町高田の歴史・文化をいかした『街の再生』」事業推進計画に掲げる民間による飲食施設等としての活用を実現するため、今後、必要な設計や改修工事を計画的に進めていく。

【執行残額について】

入札差金：修繕料 4、委託料 356

そ の 他：当初見込みを下回ったことによる消耗品費、燃料費、光熱水費等の残 326

(単位：千円)

決算書 (P140～P141)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	文化振興企画費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
3,764	3,401		120			3,281
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	363			4	359	

## 【目的】

当市の文化振興に資するため、市民が気軽に文化・芸術に親しめる環境づくりを進めるとともに、市民参加が可能な文化事業の充実を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ■市民の文化活動推進事業 2,826

## ○平成30年度目標

文化振興に関する情報提供や次世代への継承を中心とした文化事業を行い、文化・芸術活動への関心を高め、自主的な活動につなげる。

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 文化振興に関する情報の収集及び提供

市民の自主的な文化・芸術活動を支援するため、県文化振興財団などの助成事業の情報提供を行った。

## (2) 能狂言鑑賞教室

市民団体が主催する「久比岐能」公演と連携した「能狂言鑑賞教室」を開催し、中学生が日本の伝統文化に触れる機会を提供した。

期 日：平成30年10月30日(火)

会 場：上越文化会館 大ホール

参加者数：686人(市内中学校10校)

## (3) 国民文化祭開催準備費

令和元年度において、新潟県で第34回国民文化祭及び第19回全国障害者芸術・文化祭が開催されることを受け、関係団体、有識者及び市を構成員とする上越市実行委員会を組織し、県、文化団体等と連携しながら、参加団体の公募や広報・PRなど、開催に向けた準備を進めた。

## ○目標達成状況

活用可能な助成制度等に関する情報提供を行ったほか、次世代を担う子どもたちを対象に伝統文化に触れる機会を提供し、文化・芸術の継承を図った。

決算書 (P140～P141)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	文化振興企画費		

■地域の歴史的・文化的資源の保存と継承 575

○平成30年度目標

市民団体との協働事業等を継続し、地域の歴史的・文化的資産を広く発信する。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 偉人顕彰事業

- ・平成30年に生誕150年を迎えた川上善兵衛の業績や人となりを広く紹介し、後世に引き継いでいくため、関係者、関係団体、有識者及び市を構成員とした実行委員会が、生誕150年記念事業を実施した。

①川上善兵衛生誕150年記念祭

川上善兵衛が創業した岩の原葡萄園の代表者や川上善兵衛と関係の深かった勝海舟の御子孫を招き、記念講演会を実施した。

期 日：平成30年4月3日（火）

会 場：料亭「やすね」

来場者数：90人

②川上善兵衛生誕150年記念トークセッション

川上善兵衛研究家の講演や小学生の総合学習発表を行うとともに、川上善兵衛や勝海舟の御子孫、岩の原葡萄園の代表者をパネリストに迎えたトークセッションを実施した。

期 日：平成30年9月9日（日）

会 場：高田公園オーレンプラザ

来場者数：402人

- ・郷土の偉人展では、高田まちかど交流館が平成30年4月に開館したことを受け、本町通りに関係の深かった偉人達を紹介した。また、増村朴斎の特別展実行委員会等から資料の提供を受け、生誕150年を迎えた偉人の企画展を開催した。

①郷土の偉人展 「本町通りの偉人たちミニパネル展」

会 期：平成30年8月4日（土）～平成30年8月16日（木）

会 場：高田まちかど交流館

来場者数：392人

②郷土の偉人展 「明治150年×生誕150年 明治元年に生を受けた4人の偉人パネル展」

会 期：平成30年12月14日（金）～平成31年1月30日（水）

会 場：ミュゼ雪小町

来場者数：960人



郷土の偉人展  
本町通りの偉人たちミニパネル展



郷土の偉人展  
明治150年×生誕150年  
明治元年に生を受けた4人の偉人パネル展

決算書 (P140～P141)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	文化振興企画費		

- ・功績等を解説したパネルや映像を学校・市民団体に貸し出すことにより、郷土の偉人・先人を広く市民に紹介した。
- ・公益社団法人上越市有線放送電話協会と連携し、毎月2回「ふるさとの偉人」番組で、郷土の偉人の功績を紹介した。

(2) レルヒ少佐顕彰事業

「日本スキー発祥の地・上越市」とレルヒ少佐を紹介する小冊子を市内の小学6年生に配付し、地域の歴史・文化を学習する機会を提供した。

(3) 高田瞽女顕彰事業

高田瞽女の文化を保存・発信する会と協力して、高田瞽女が訪れたゆかりの地を巡るツアーを実施したほか、高田瞽女から指導を受けた演奏者による瞽女唄の解説や演奏を行った。

①高田瞽女バスツアー

期 日：平成30年6月10日（日）

見学先：高田瞽女ゆかりの地（高田区、牧区ほか）

参加者数：34人

②瞽女唄演奏会

期 日：平成30年6月10日（日）

会 場：高田まちかど交流館

来場者数：160人

○目標達成状況

川上善兵衛や増村朴斎等を顕彰している市民や団体、高田瞽女の文化を保存・発信する会等と連携しながら、地域の歴史・文化を知ってもらう機会を提供した。

【事業の成果】

- ・文化団体等へ情報提供を行い、自主的な文化・芸術活動を支援した。
- ・川上善兵衛生誕150年記念事業実行委員会への支援や郷土の偉人展の実施により、幅広い世代の方が偉人の功績や精神を学び、偉人に関する理解や関心を深める機会を提供した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・引き続き、文化団体等への情報提供や相談業務を継続し、市民の文化・芸術活動の支援を行う。
- ・当市出身の偉人の紹介等を通して、市民の郷土に対する誇りと愛着を深めるとともに、次世代を担う子どもたちの豊かな感性を培う取組を進めていく。

【執行残額について】

入札差金：使用料及び賃借料 4

その他：国民文化祭上越市実行委員会負担金の残 197

当初見込みを下回ったことによる旅費や修繕料の残ほか 162

(単位：千円)

決算書 (P140～P143)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	坂口記念館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
7,325	7,262				818 (使用料、諸収入)	6,444
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	63				63	

## 【目的】

坂口記念館の適切な維持管理を行うとともに、文化勲章受章者で応用微生物学の世界的権威である坂口謹一郎博士を顕彰し、教育、学術及び文化の振興を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

年間入館者数 3,800人

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 坂口謹一郎博士の顕彰

- ・坂口謹一郎博士顕彰委員会と連携し、「発酵食品と坂口謹一郎を語ろう JAZZとお酒を楽しむ夕べ」を開催したほか、博士の生誕日(11月17日)の前後3日間を入館無料デーとし、博士の業績紹介や発酵食品である甘酒の無料サービスを行った。
- ・頸城区観光協会など民間団体等と連携し、博士の顕彰及び坂口記念館の利用促進に取り組んだ。

## (2) 定期的な事業の開催

- ・「坂口謹一郎博士と酒とつばきの祭典」や「ひなまつり」を開催した。
- ・地域の市民団体と連携し、「繭玉づくり教室」「椿のちりめん細工教室」「酒造り唄教室」など、施設を活用したイベントを開催した。
- ・越後・謙信SAKEまつり会場で坂口記念館出張イベント(出張坂口記念館)を実施した。

## (3) 集会、イベント、文化活動等の場の提供

- ・市民等の集会や文化活動などの場として貸館業務を行った。
- ・施設の案内、博士にゆかりのある沖縄の泡盛「御酒(うさき)」や地酒の試飲・販売、発酵食品を使った郷土料理などによるサービスを提供した。



決算書 (P140～P143)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	坂口記念館管理運営費		

○施設の管理実績

<入館者数及び使用料等の推移>

年度	利用者数合計 (人)				使用料 (円)
	前年度比較	酒杜り館 入館者数(人)	楽縫庵占用 利用者数(人)		
H28	3,642	57	2,453	1,189	638,260
H29	4,947	1,305	3,264	1,683	710,610
H30	5,090	143	3,220	1,870	768,690

<施設管理における市の収支状況>

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	638	711	692	769
	その他	32	50	70	49
	合計	670	761	762	818
②支出	施設維持管理費	7,522	7,927	7,325	7,262
	うち委託料	4,680	5,011	5,139	5,110
	その他	-	-	-	-
	合計	7,522	7,927	7,325	7,262
③公費投入額 (②-①)		6,852	7,166	6,563	6,444
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		1,881	1,449	1,727	1,266

○目標達成状況

年間入館者数 5,090 人

【事業の成果】

新潟県・庄内エリアプレデスティネーションキャンペーン(10月1日～12月31日)において、関西方面の団体客(8回延べ253人)に発酵食品を取り入れた郷土料理を提供するとともに、坂口謹一郎博士の功績や「発酵のまち上越」をPRした。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

坂口謹一郎博士の功績は幅広く、発酵や酒、歌などの分野において、当市のPRにつなげている。今後も、顕彰委員会や頸城区観光協会のほか、様々な団体と連携した顕彰事業の実施を通して、まちの活性化につながる取組を推進していく。

【執行残額について】

その他:当初見込みを下回ったことによる委託料等の残 63

(単位：千円)

決算書 (P142～P143)	2 款 1 項 21 目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
9,969	9,763				483 (使用料、諸収入)	9,280
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	206			8	198	

## 【目的】

未明文学の紹介と関係資料の展示、各種講座等やおはなし会の開催を通じて、小川未明の業績やその作品を広く紹介し、教育・学術及び文化の振興を図る。

小川未明文学賞を開催することにより、次代を担う子どもたちの感性や想像力、郷土に対する愛着心や誇りを育む。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■ソフト事業の実施 1,945

○平成 30 年度目標

各種講座の受講者の満足度 90.0%

※受講者へのアンケートで「大変良い」「良い」「どちらとも言えない」「良くない」「非常に良くない」の評価項目のうち、「大変良い」「良い」と評価した人の割合

○実施内容、これまでの経過等

(1) 特別展・企画展の開催

①特別展 第 26 回小川未明文学賞受賞記念展

大賞・優秀賞の受賞者が決定したことを記念して、受賞者の喜びの声や作品の講評のほか、贈呈式の様子などを紹介した。

会 期：平成 30 年 3 月 31 日（土）～平成 30 年 4 月 30 日（月・振休）

会 場：小川未明文学館 市民ギャラリー

入館者数：2,775 人



文学賞受賞記念展の様子

決算書 (P142～P143)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		

②特別展 小川未明と『赤い鳥』

日本の児童文学成立期に主導的な役割を果たした児童雑誌『赤い鳥』の創刊100年を記念して、小川未明と『赤い鳥』主宰者である鈴木三重吉のつながりや『赤い鳥』に発表された未明作品、『赤い鳥』から未明主宰の児童雑誌『お話の木』に至るまでの未明の創作活動を紹介した。

会 期：平成30年10月13日（土）～平成30年12月9日（日）

会 場：小川未明文学館 市民ギャラリー

入館者数：3,190人

関連事業：ア 記念講演会

「童心」の理想—小川未明・『赤い鳥』と大正の社会をテーマに講演会を実施した。

講 師：河原和枝氏（甲南女子大学人間科学部文化社会学科教授）

期 日：平成30年10月27日（土）

会 場：高田図書館 第1会議室

参加者数：25人

イ 特別展おはなし会

未明童話「子ざると母ざる」、「しいの実」、「谷間の四十雀」、「玉様の感心された話」、「飴チョコの天使」の朗読を行った。

出 演：未明ボランティアネットワーク

期 日：平成30年10月14日（日）

会 場：小川未明文学館 未明の部屋

参加者数：23人

ウ ワークショップ

子どもたちが保護者とともに、未明の代表作「月夜とめがね」をイメージした、くるくるまわるライト（走馬灯）を作成した。

講 師：永井克行氏（上越科学館館長）

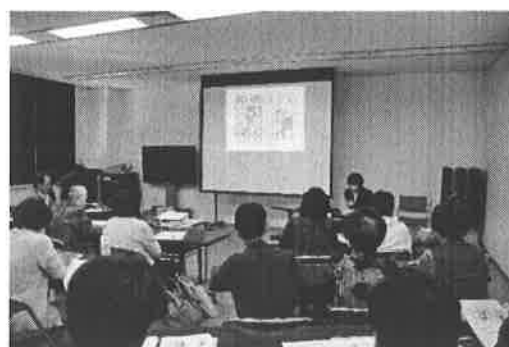
期 日：平成30年11月10日（土）

会 場：高田図書館 第1会議室

参加者数：24人



特別展 小川未明と『赤い鳥』



特別展記念講演会

決算書 (P142～P143)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		

③出張企画展「未明文学の森—おいたちと作品—」

小説家や童話作家、詩人、評論家として多様な作家活動を行った小川未明の約3,200編にわたる“未明文学の森”ともいえる膨大な作品や未明のおいたちについて、小埜裕二氏（上越教育大学副学長・小川未明文学館専門指導員）の解説パネルにより紹介した。

会 期：平成30年6月16日（土）～平成30年7月29日（日）

会 場：ミュゼ雪小町 ギャラリーA・B

入館者数：1,050人

④企画展「未明文学の森—おいたちと作品— アンコール展」

出張企画展「未明文学の森—おいたちと作品—」の内容に新たな資料を加え、再展示を行った。

会 期：平成30年12月15日（土）～平成31年1月14日（月・祝）

平成31年2月7日（木）～平成31年2月24日（日）

会 場：小川未明文学館 市民ギャラリー

入館者数：1,985人

(2) 各種講座の開催

①文学館講座

小川未明やその文学、特別展にちなんだ講座を実施した（全3回）。

第1回 期 日：平成30年10月20日（土）

演 題：小川未明と鈴木三重吉—『赤い鳥』の磁場と影響について

講 師：小埜裕二氏（上越教育大学副学長・小川未明文学館専門指導員）

受講者数：20人

第2回 期 日：平成30年11月17日（土）

演 題：近代日本の子ども雑誌—『赤い鳥』にいたるまで

講 師：柿本真代氏（仁愛大学人間生活学部子ども教育学科講師）

受講者数：19人

第3回 期 日：平成30年12月1日（土）

演 題：『赤い鳥』と未明童話

講 師：渋谷百合絵氏（秀明大学学校教師学部専任講師）

受講者数：32人

②朗読研修会

橘由貴氏（朗読療法士・ヴォイスアーティスト）による朗読の基礎や表現力について学ぶ研修会を実施した（全3回）。

期 日：平成30年6月8日（金）、6月22日（金）、7月6日（金）

受講者数：26人

③童話創作講座

佐々木赫子氏（児童文学作家、小川未明文学賞最終選考委員）による童話の書き方に関する講座を実施した（全3回）。

期 日：平成30年6月16日（土）、7月21日（土）、7月28日（土）

受講者数：13人

決算書 (P142～P143)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		

(3) 未明ボランティアネットワークによるおはなし会の開催

①文学館おはなし会

文学館の入館者を対象に、未明童話の朗読を行った。

実施日：毎月第2、第4日曜日

参加者数：全23回、延べ269人

②出張おはなし会

市内の小学校・放課後児童クラブを訪問し、未明童話の朗読を行った。

参加者数：36か所、1,315人

(4) 子ども向け事業の開催

①小川未明文学館こども祭

「月夜と眼鏡」をテーマにした工作やおはなし会を行った。

実施日：平成30年8月26日(日)

参加者数：292人

②未明童話の小冊子の配布

数多くある未明童話を子どもたちに読んでもらうため、月替わりで未明童話1作品を冊子にして無償配布した。

参加者数：延べ722人

(5) 文学館資料の収集・調査及び活用

①特集展示1「教科書の中の小川未明—もう一度読みたい、あの作品—」

1949年(昭和24)以降の小中学校の国語の教科書の中から、未明作品が掲載された教科書を紹介した。

会期：平成30年3月24日(土)～平成30年6月28日(木)

②特集展示2「学年別学習雑誌と小川未明」

未明童話が掲載された幼児から小学6年生までの学年別学習雑誌を紹介した。

会期：平成30年6月30日(土)～平成30年9月27日(木)

③特集展示3「新収蔵資料 未明自筆原稿「死刑囚の写真」」

平成30年度に小川未明文学館が新たに収蔵した、未明小説の自筆原稿「死刑囚の写真」を展示・紹介した。

会期：平成30年9月29日(土)～平成30年12月19日(水)

④特集展示4「紹介展 未明童話と親しもう」

幼児から小学生を対象に月替わりで紹介・配布してきた未明童話の初出誌や掲載誌を一堂に紹介した。

会期：平成30年12月22日(土)～平成31年3月19日(火)

○目標達成状況

各種講座の受講者の満足度 97.8%

■文学館の管理運営 3,858

○平成30年度目標

入館者数 25,000人

※入館者数は、文学館入口の機械によるカウント数の2分の1と整理

決算書 (P142～P143)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		

○実施内容、これまでの経過等

(1) 館報の刊行

館報（年刊）を刊行し、文学館の事業やボランティアの活動などを広く紹介した。  
発行部数 1,000部（5月刊行）

(2) 文学館専門指導員の設置

文学館の事業や運営、資料収集、展覧会の企画内容等については、小川未明研究の第一人者である小埜裕二専門指導員（上越教育大学副学長）から指導や助言を受けながら、必要な資料の収集や効果的な資料展示を行った。

(3) 市民ギャラリーの貸館

市民の文化活動の推進のため、市民ギャラリーの貸館を行った。

<入館者数及びギャラリー利用状況>

年度	入館者数（人）	市民ギャラリー	
		利用件数（件）	使用料（円）
H28	25,040	20	417,340
H29	27,079	16	407,253
H30	28,286	19	439,670

○目標達成状況

入館者数 28,286人

※入館者数は、文学館入口の機械によるカウント数の2分の1と整理

■小川未明文学賞の開催 3,960

○平成30年度目標

小川未明文学賞応募数 500編

○実施内容、これまでの経過等

第27回小川未明文学賞

小川未明文学賞委員会へ交付金を交付

<応募数> 503編（短編部門284編・長編部門219編）（うち市民からの応募3編）

<受賞作> 大賞（1編）「湊まちの寅吉」（長編部門）

藤村 沙希（新潟県）

優秀賞（1編）「昔、瞽女さんが雁木の町を歩いていたんだよ」（長編部門）

河村 一美（上越市）

<贈呈式> 期 日：平成31年3月30日（土）

会 場：小川未明文学館 市民ギャラリー

来場者数：91人

内 容：・未明ボランティアネットワークによる未明童話「月夜と眼鏡」の朗読

・市内合唱団（幼児から高校生によって構成）による「月夜と眼鏡」ほか合唱

・小川未明文学賞最終選考委員による講評、受賞者の挨拶

決算書 (P142～P143)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		



最終選考委員による講評



大賞受賞者の挨拶

○目標達成状況

小川未明文学賞応募募数 503 編

【事業の成果】

- ・特別展や特集展示のほか、各種講座やおはなし会等の開催を通して、多くの人から小川未明の業績に触れ、未明作品に親んでもらうことができた。
- ・毎年、大賞作が株式会社学研プラスから発刊されており、過去の大賞作品が様々な推薦図書などに選ばれ紹介されている。
- ・平成30年度の第27回文学賞においては、初めて新潟県在住者が大賞と優秀賞に選出され、地元メディアに取り上げられたことにより、小川未明文学賞のPRにつながった。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

より多くの市民から小川未明の作品や業績に理解を深めてもらうため、小川未明文学館の展示内容や各種講座の充実を図るとともに、小川未明文学賞について、小川未明文学賞委員会等と連携しながら、より一層の周知を図る。

【執行残額について】

入札差金：印刷製本費 8

その他：当初見込みを下回ったことによる費用弁償、普通旅費、手数料等の残 198

(単位：千円)

決算書 (P142～P143)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	旧第四銀行高田支店管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
7,353	7,245				312 (使用料、譲収入)	6,933
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	108			12	96	

## 【目的】

昭和の高田界限の歴史を感じることができる施設として適切に維持管理するとともに、地域のにぎわい創出のため、施設の利用促進を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

年間入館者数 25,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) まちなか回遊の拠点施設の一つとしての活用

- ・市民や来訪者が気軽に立ち寄ることができるホールの入口付近に、まち歩き案内や地域のイベント情報のチラシを配置した。
- ・彫刻家峯田敏郎氏の作品のほか、建物の歴史や高田界限の歴史・文化を紹介するパネルを展示した。

## (2) イベントや文化活動などの場の提供

趣ある吹き抜け構造のホールにおいて、イベントや音楽の発表会など多彩な催しが行われた。

## (3) 施設の維持管理 7,245

- ・修繕料 475 (西側通路側溝蓋取付修繕、エアコンガス漏れ修繕ほか)
- ・委託料 2,273 (清掃業務、機械警備業務、建築物定期点検業務ほか)
- ・光熱水費、借上料ほか 4,497 (電気・ガス・水道料金、複写機借上料ほか)



決算書 (P142～P143)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	旧第四銀行高田支店管理運営費		

○施設の管理実績

<入館者数及び貸館利用状況> ※平成29年度は、改修工事のため10月末で休館

年度	入館者数(人)	うち貸館		
		利用件数(件)	利用人数(人)	使用料(円)
H28	20,824	-	-	-
H29	15,985	-	-	-
H30	23,988	66	5,739	311,340

<施設管理における市の収支状況>

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	-	-	241	311
	その他	-	3	-	1
	合計	-	3	241	312
②支出	施設維持管理費	4,547	4,603	5,742	5,695
	うち委託料	1,381	2,311	2,280	2,273
	その他	1,111	1,182	1,611	1,550
	合計	5,658	5,785	7,353	7,245
③公費投入額(②-①)		5,658	5,782	7,112	6,933
④利用者1人当たりの公費投入額(単位:円)		272	362	284	289

○目標達成状況

年間入館者数 23,988人

【事業の成果】

- ・音楽や演劇の公演、文化団体等の発表会やイベント、レストラン、試飲会など様々な形態での利用を通じて、まちの賑わい創出につなげることができた。
- ・建物の保存に向けた取組を進めてきたことにより、平成31年3月に市の文化財に指定された。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

高田まちかど交流館は、高田駅から本町商店街を通り、高田公園に向かう際の中間的な場所にある。まちなか回遊の拠点施設として、この立地をいかした催し等が開催されるような取組を進めていく。

【執行残額について】

入札差金：印刷製本費 5、委託料 7  
 その他：当初見込みを下回ったことによる光熱水費、  
 使用料及び賃借料等の残 96



開館記念セミナー

(単位：千円)

決算書 (P142～P145)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	ミュゼ雪小町管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
15,854	15,233				2,357 (使用料助)	12,876
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	621				169	452

## 【目的】

芸術活動及び文化交流の場を提供することにより、市民による芸術文化の振興を図り、にぎわいと活力ある地域社会の形成に資する。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

年間入館者数 60,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 芸術文化活動などの場の提供

美術館的仕様のギャラリーと創作活動・集会機能を持つ多目的室の貸室を行い、市民の文化・芸術活動や交流の場として利用された。

## (2) 企画展などの開催

生誕150年を迎えた4人の偉人パネル展を開催したほか、国際交流を目的とした展覧会や上越地区の高校生による作品展が開催されるなど、様々な用途で利用された。

## (3) コーディネーターの配置

文化団体の展示会等の企画立案に向けた働きかけや団体間の施設利用の調整を行うとともに、イベントなどに関する企画指導や相談を行った。

## ○施設の管理実績

## &lt;入館者数及び貸館利用状況&gt;

年度	入館者数(人)	うち貸室利用者		
		利用件数(件)	利用人数(人)	使用料(円)
H28	62,100	646	30,494	2,305,910
H29	55,111	683	21,658	2,002,302
H30	51,039	686	18,073	2,316,852

※複数日の貸室の場合は1日1件でカウント、使用場所が複数の場合は1件でカウント

決算書 (P142～P145)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	ミュゼ雪小町管理運営費		

<施設管理における市の収支状況>

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	2,306	2,002	2,000	2,317
	その他	14	72	64	40
	合計	2,320	2,074	2,064	2,357
②支出	施設維持管理費	16,093	15,631	15,854	15,233
	うち委託料	7,062	6,813	6,865	6,713
	その他	-	-	-	-
	合計	16,093	15,631	15,854	15,233
③公費投入額 (②-①)		13,773	13,557	13,790	12,876
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		222	246	230	252

○目標達成状況

年間入館者数 51,039人

【事業の成果】

- ・国際交流に関する展覧会や上越地区の高校生による作品展、いけばな展、書道展が開催されるなど、文化・芸術活動の成果発表の場として幅広い世代から利用され、高田のまちなかの賑わいづくりにつなげることができた。
- ・ミュゼ雪小町常駐のコーディネーターが文化団体等の活動情報を収集し、施設の利用を促すことで、年間を通して施設の利用が図られた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

多目的室の利用件数は増加しているものの、ギャラリーの利用件数は減少している。ギャラリーの利用促進について検討していく必要がある。

【執行残額について】

入札差金：委託料 151、使用料及び賃借料 18

その他：当初見込みを下回ったことによる共済費等の残 452

(単位：千円)

決算書 (P144～P145)	2款1項23目 政策研究所費	所管課等	上越市創造行政研究所
事業名	調査・研究費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
5,474	5,238					5,238
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	236	105	48	61	22	

## 【目的】

調査研究等を通じて市政における重要課題の解決や理想像の構築に寄与し、地方自治体としての政策形成能力の向上を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

- ・政策形成に有用な基本情報を提供するための基礎的調査研究等を行う。
- ・次期総合計画の骨格となりうる政策の中長期的展望を見いだすための先行的調査研究を行う。
- ・当市の政策形成能力の強化を図るため、市職員や有識者等との研究交流を行う。

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 調査研究

## ①政策形成に資するデータベースの構築

上越市の人口や世帯数を中心としたデータベースの更新や、大学等へのアンケート調査による人口動態の把握を行うとともに、庁内外からの依頼等に基づき、データの提供や各種勉強会における話題提供を行った。

## ②地域資源情報の作成

政策形成に必要な基礎情報として上越市とその周辺地域の特徴的な地域資源情報を整理するため、域学連携及び広域連携による共同研究グループを設置し、大学の支援を受けながら調査研究活動を進めるとともに、報告書の取りまとめや大学の授業での活用を行った。また、ニュースレターへのコラム執筆などを通じて、研究成果の情報発信を行った。

## (2) 研究交流・情報発信

## ①信越県境地域づくり交流会の開催

持続可能な地域づくりに向けた学びと交流を深める広域プラットフォームを形成するため、関係機関との広域・異業種連携による企画運営を行い、第5回交流会(長野県栄村)、第6回交流会(長野県飯山市)での開催を支援するとともに、当市で第7回交流会を開催した。

決算書 (P144～P145)	2款1項23目 政策研究所費	所管課等	上越市創造行政研究所
事業名	調査・研究費		

②庁内勉強会の開催

当市のまちづくりに関する基礎知識を学習する機会とするため、令和元年度の研究テーマである「国際交流」に関する庁内勉強会（まちづくり職員トーク）を開催した。

③域学連携に関する研修会の開催

地域と地元大学の連携による持続可能な地域づくりの契機とするため、過年度の研究成果を活用し、上越市職員と上越教育大学教職員を対象とした研修会を開催した。

④ニュースレターの発行

調査研究活動の一部を紹介するほか、当市のまちづくりを考える上で共有すべき課題等を発信するため、ニュースレター「創造行政」を年3回発行した。

⑤学会での研究成果発表等の実施

国内の研究機関との研究ノウハウ共有や研究ネットワーク強化を推進するため、地域政策に係る学会やフォーラムでの研究成果発表、自治体シンクタンク研究交流会議へのパネリストとしての出席などを行った。

○目標達成状況

- ・基礎的調査研究の成果として、人口や世帯数を中心としたデータベースの更新、地域資源情報の作成、ニュースレターの執筆等を実施した。
- ・先行的調査研究として、地域資源情報の作成、信越県境地域づくり交流会でのテーマ設定に係る調査等を実施した。
- ・政策形成能力の強化に資する研究交流として、信越県境地域づくり交流会、庁内勉強会、研修会などの開催や、地域資源情報に関する共同研究や学会発表等を実施した。

【事業の成果】

各種調査研究や研究交流・情報発信を通じて、政策形成能力の向上が図られた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・過年度調査研究の継承・発展や新たな調査研究の推進力を更に高めるため、一層の調査研究能力やコーディネート能力の維持・強化が必要である。
- ・研究成果の活用を更に促進するため、庁内外の交流・連携体制を築くことが重要であり、そのために情報発信能力やコーディネート能力の強化が必要である。

【執行残額について】

事業費節減：外部研究機関からの支援による旅費等の節減 105  
 事業未実施：ニュースレター郵送時期の見直しほか 48  
 入札差金：ニュースレター印刷製本費 61  
 その他：執務場所の移転に伴う不用額ほか 22

(単位：千円)

決算書 (P152～P153)	2款1項29目 鉄道駅舎等管理費	所管課等	交通政策課 (平成30年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	鉄道駅舎等管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
12,770	12,042				476 (財産収入 譲収入)	11,566
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	728			380	348	

## 【目的】

市が所有する駅待合所等関連施設の適切な維持管理等を通じ、鉄道利用者の安全確保及び利便性向上を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

- ・駅待合所等関連施設の清掃、周辺の草刈り及び修繕等の維持管理を行った。
- ・ほくほく線うらがわら駅の待合室用地として借り上げている土地を購入した。

路線名	区名	駅名	決算額	主な経費
ほくほく線	浦川原区	うらがわら駅 虫川大杉駅	7,530	電気料金 803
				営繕修繕料 1,315 (うらがわら駅屋根塗装修繕等)
	施設管理委託料 2,607 うらがわら駅待合室用地購入費 2,618			
ほくほく線	大島区	ほくほく大島駅	2,002	電気料金 817
				営繕修繕料 270 (ほくほく大島駅昇降機メンテナンス修繕等)
施設管理委託料 797				
ほくほく線	頸城区	くびき駅 大池いこいの森 駅	1,986	電気料金 401
				営繕修繕料 486 (くびき駅待合室窓枠修繕等)
				施設管理委託料 953
信越本線	大潟区	犀潟駅 土底浜駅	524	報償金 196
				電気料金 63
				営繕修繕料 19 (土底浜駅前公衆トイレ便器詰り修繕)
				施設管理委託料 173

決算書 (P152～P153)	2 款 1 項 29 目 鉄道駅舎等管理費	所管課等	交通政策課 (平成 30 年度所管は新幹線・ 交通政策課)
事業名	鉄道駅舎等管理運営費		

**【事業の成果】**

施設の安全性及び利便性を確保し、快適に鉄道を利用していただくことができた。

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

- ・施設の快適な利用環境を確保・提供するため、清掃回数等について乗降客数に応じた基準を設け、地域住民との協働により駅待合所等の維持管理を行っていく。
- ・ほくほく線開業から 22 年が経過し、駅待合所等の老朽化が進んできていることから、引き続き、適切に維持管理を行うとともに計画的に修繕を進めていく。

**【執行残額について】**

入札差金：うらがわら駅屋根塗装修繕等にかかる営繕修繕料	262
屋上除雪作業委託等にかかる施設管理委託料	104
うらがわら駅待合室用地購入費	14
その他：電気料金等の実績が当初見込みを下回ったため	348

(単位：千円)

決算書 (P162～P163)	2款5項1目 統計調査総務費	所管課等	企画政策課
事業名	統計調査総務費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
2,024	1,875		253			1,622
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	149	149				

**【目的】**

誰もがが必要な統計情報が得られる環境を整備する。

## 平成30年度の取組

**【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】**

## ○平成30年度目標

上越市の各種行政施策等の基礎資料とするほか、市民等の多様な利用に供するため、各種統計調査結果の情報収集及びデータベース化を行い、統計要覧の発行やホームページの随時更新により提供する。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・行政施策等の基礎資料として最新データを収集し、上越市統計要覧を発行した。
- ・国の基幹統計調査結果から当市に関するデータを抽出するとともに、各種統計調査結果を見やすくデータベース化し、市ホームページに随時掲載した。

## ○目標達成状況

計画どおりに統計要覧を発行したほか、最新の各種統計情報を利用者に分かりやすく、かつ利用しやすく提供することができた。

**【事業の成果】**

統計要覧及び最新の統計調査結果をホームページに掲載し、市民等に適時に提供することができた。

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

各種統計データを速やかにホームページに掲載するなど、引き続き、統計情報を利活用しやすい環境の整備を行う必要がある。

**【執行残額について】**

事業費節減：消耗品費等の節減 149



(単位：千円)

決算書 (P162～P165)	2款5項2目 統計調査費	所管課等	企画政策課
事業名	工業統計調査費ほか		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
11,272	10,059		10,059			
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,213				1,213	

## 【目的】

- 各種統計調査等：工業統計調査を始めとする各種統計調査を正確かつ円滑に実施する。
- 統計調査員確保対策事業：各種統計調査を円滑に行うため登録統計調査員を確保するとともに、調査員の資質向上を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ■各種統計調査等

## ○平成30年度目標

進捗管理の徹底、審査手順の明確化等のチェック体制を確立し、国の基幹統計調査に係る各種調査事務を、国及び県と連携し正確かつ円滑に実施する。

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 各種基幹統計調査における予算現額及び執行額

調査名称	期日又は基準日	予算現額①	執行額②	執行残額 ①-②
工業統計調査	6月1日	953	894	59
学校基本調査	5月1日	58	56	2
農林業センサス	2月1日	27	8	19
住宅・土地統計調査	10月1日	9,458	8,457	1,001
漁業センサス	11月1日	598	469	129
経済センサス調査区設定	7月1日	54	54	0
経済センサス-基礎調査	6月～11月	54	53	1
計		11,202	9,991	1,211

## (2) 基幹統計調査

## ・工業統計調査

製造業に属する事業所に対し、製造品出荷額等の生産活動に関する事項を調査した。

決算書 (P162～P165)	2款5項2目 統計調査費	所管課等	企画政策課
事業名	工業統計調査費ほか		

- ・学校基本調査  
小中学校などに対し、児童・生徒数や教員数等の学校に関する事項を調査した。
- ・農林業センサス  
農林業諸施策及び農林業に関する諸統計調査に必要な基礎資料の整備を行った。
- ・住宅・土地統計調査  
住宅の現況や住宅事情及び現住居以外の住宅・土地の保有状況等の調査を行った。
- ・漁業センサス  
漁業の基本的構造、就業構造及び漁業生産の背景を明らかにするための調査を行った。
- ・経済センサス調査区設定  
経済センサスの調査区域を明確にするため、調査単位区の整備を行った。
- ・経済センサス-基礎調査  
各種統計調査の実施のため、母集団情報を整備する準備を行った。

○目標達成状況

審査手順や作業工程に基づき、各種基幹統計調査を正確かつ円滑に実施することができた。

■統計調査員確保対策事業

○平成30年度目標

市広報及びホームページによる募集を通じて統計調査員希望者の登録を推進し、調査時に必要な人材を確保するとともに、調査員に対し統計の役割の教示や利活用事例の情報提供などを行い、資質向上を図る。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 統計調査員確保対策事業における予算現額及び執行額

予算現額①	執行額②	執行残額①-②
70	68	2

(2) 具体的な取組

国の統計調査員確保対策事業の一環として、広報上越等を通じて新規登録者の募集を行うとともに、登録調査員研修への参加を促すなど、調査員の資質の向上を図る取組を行った。

○目標達成状況

新潟県登録調査員研修への参加等を通じて、統計調査への理解が深まるなど、調査員の資質の向上が図られた。

<登録統計調査員の状況(平成31年3月31日現在)>

	合併前上越市	13区計	合計
登録者数	103人	53人	156人

(内訳) 平成30年度新規登録者数…11人

【事業の成果】

新規登録者を募集したことにより、統計調査員を確保することができた。また、調査員の資質向上の取組を実施したことにより、調査事務を適切に実施することができた。

決算書 (P162～P165)	2款5項2目 統計調査費	所管課等	企画政策課
事業名	工業統計調査費ほか		

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

関係団体等に登録統計調査員の募集に関する協力を依頼するなど、引き続き当該調査員の確保に向けた取組を進める必要がある。

**【執行残額について】**

その他：各統計調査交付金の決定に伴う残 1,213